事項 0 国際労働理事会ニ於ケ ル 八大産業国決定ニ関ス ル 件

五三九 四月四日 内田外務大臣宛(電報)在伊国諸井臨時代理大使ヨリ

目選択案討議ニ付安達労働理事会代表代理ヨ リ報告ノ件 八大産業国委員会ニ於ケル八大産業国決定項

- 記 ニ関スル関係五省協議会協議案 大正十年一月二十四日開催ノ八大産業国問題
- = 大正十年八月十六日犬塚労働理事会代表発内 八大産業国委員会議事経過報告ノ件 田外務大臣宛理第一二六号
- Ξ 大正十年十一月四日犬塚労働理事会代表発内
- 田外務大臣宛電報第一九五号 及十一月一日ノ審議経過概要報告ノ件 八大産業国問題ニ関スル委員会十月二十八日

第七五号

安達ヨリ

(四月五日接受)

八大工業国委員会ハ四月三日羅馬ニテ会合其ノ議事要領左

八大工業国決定項目ノ選択ニ付テ ハ Fontain 及 Gini

> 働総会ニ於ケル理事改選ニノミ適用スベキ一時的標準ト為 動多ク経済界一般ニ不安定ナル時ニ当リ且未ダ統計ニ関ス コトニ決定シタリ シテ華府労働会議準備委員会ガ採用シタル項目ニ再ビ拠ル 久的ニ標準ト為スコト不可能ナリトセラレ「ジニ」モ亦其 ル回答ヲ与ヘザル諸国有ルヲ以テ直チニ該案ヲ援用シテ永 コトトシ唯数字ニ付テハ最近統計資料ニ依リ之ヲ再審スル ノ自説ヲ撤回シ Hodacy ノ協定案ニ 従ヒ差当リ 今年度労 提出ノ Gini 案ハ理想的ノ案ナレドモ目下為替相場ノ変 間ニ意見ノ相違アリタルモ論議ノ結果客年十月ノ委員会

会案ノ貿易総額数字ニ換へ得ルコ 較統計完了シ各員之ヲ承認スル時ハ該数字ヲ以テ準備委員 二、尤モ若シ「ジニ」ニ於テ四月末日迄ニ各国国富総額比 ٢

セル コト 三、移民ニ関スル数字ハ Hodacy 及 Angilott ニ Wood 及日本ノ異議アリタル為標準項目ニ 一代リ出席 加ヘザル

四 聯盟理事会ニ対スル報告者ハ 「フォ ン テ 1 ヌ 及

標準項目ノ適用ニ依レバ何レ ルルヤヲモ附記スルコト ニ」ニシテ該報告書ニハ聯盟理事会ノ参考ニ資スル為上記 ノ国々ガ八大工業国ト認メラ

利益ナル場合ヲ生ズルヤモ測リ難キニ依リ一応従来ノ関係 モアルニ付犬塚代表ト御打合セノ上何分ノ御回示煩シ度ク スル材料ヲ基準トスル外無カルベク然ル時ハ我国ニ取リ不 政府ノ統計ニ関スル回答遅延スルニ於テハ「ジニ」ノ蒐集 西ニ代ルニ非ズヤト推測セラレザルニ非ザレドモ若シ本邦 リ思フニ本年ノ理事改選ニ当リテハ波蘭及印度ガ米国及瑞 務総長ノ要求セル統計数字ニ関スル回答無キ旨ヲ指摘シタ 為念最近ノ統計数字ハ当方事務所迄御送附置相成度 委員会ノ討議ニ際シ「ジニ」ハ波蘭及日本ヨリ聯盟事

(附記一)

協議会協議案 大正十年一月二十四日開催ノ八大産業国問題ニ関スル関係五省

右協議案

八大工業国問題沿革概要

原案ニ於テハ十二名ノ政府代表者中五名ハ五大国政府各一 八大工業国ニ関スル労働編ノ規定ハ当初英国ノ提出シアル

> 耳羲委員会ヨリ強硬ナル反対アリ第三百九十三条所定ノ如 名ヲ指名スヘキモノトアリ ク規定セラルルニ至レリ タル処労働法制委員会ニ於テ白

見地ヨリ之ヲ決定スヘキモノナリトノ見解ヲ以テ日、 頓労働総会詮衡委員会ニ於テ日、 米、仏、伊、白、瑞西及西班牙ノ八ケ国ヲ指定シタリ 西及西班牙(米国加入ノトキハ西班牙其ノ席ヲ失フ)ニ決 労働理事会ハ此際速ニ組織シ置クノ必要アリシヲ以テ華盛 八大工業国決定ノ問題ハ労働編ノ規定ニ依レハ聯盟理事会 ル処其ノ結果満足ナラサルニ依リ結局本問題ハ斯ル統計上 等工業ノ重要程度ヲ示スヘキ各種材料ヲ蒐集シテ研究シタ 於テ当初先ツ各国ニ於ケル労働者数、 ノ数字ヲ標準トシテ之ヲ決定セムヨリハ寧ロ更ニ一層広キ 八大工業国選定方法ニ付テハ華盛頓労働総会準備委員会ニ 権限ニ属スル処当時未タ正式ニ条約成立スルニ至ラス且 英、仏、伊、白、独、瑞 鉄道哩数、輸出入額

重ネツツアル アリ之ニ関シテ聯盟理事会及労働理事会ニ於テ種々協議ヲ 右決定ニ対シ印度、 ハ御承知ノ通ナル処本月開会セラレタル第六 加奈陀、 波蘭、 瑞典等故障ヲ申立ツル

定セラレタリ

五三九

回労働理事会ニ於テ右ニ付根本的ノ調査ヲ為スカ為委員ノ

任命ヲ見タル次第ナリ

産業統計資料

資料ヲ請求シ来レル処是迄提出シタル産業統計ハ左ノ如シ 右八大工業国ノ決定ニ関シ今般犬塚代表ヨリ充分豊富ナル

廿一九一三年以降毎年ノ労働者数

(小官設、私設鉄道及軌道従業員総数並人力車及其他陸 上運送ニ従事スル労働者ノ総数

四分号ノ外大工、左官等工場職工ニ非サル工業労働者

ロー九一三年以降毎年ノ工業用動力数(水力及火力ノ合

||一九一三年以降毎年ノ船舶「ネット トン ネー ジ

(竹百噸以上ノ船舶(汽船及帆船ヲ含ム) ンネージ」 1 「ネ ッ

四百噸未満ノ船舶及石積船舶ノ 「ネッ ŀ ŀ ンネー ジ

台工業ニ使用セラルル者ノ総数

口鉄道ノ総哩数

日蒸汽及水力ノ原動総馬力

四輸出及輸入額

右ノ外如何ナル統計ヲ提出スヘキ t

H工場数及鉱業数

口生産額

が生産額ノ統計中例へハ鉱産額殊ニ石炭産出額、 工業品殊ニ船舶車輪製造額等ヲ必要トセサル 製造

ロ 農産額ニ付テハ如何

17水産額ノ統計ヲ提出スル ハ有利ナラ ス

戸其他必要ノモノ如何

巨農産額又ハ水産額ヲ計上スト 上スルノ必要ヲ生セスヤ セハ其ノ労働者数ヲモ計

||一金融ニ関スル統計ヲ必要トスル 券発行額、 生産事業ノ資本金額右ノ為融通セラル コト ナキヤ例 \sim ハ兌換 ル金

ノヲ必要トス ル ヤ

キヤ例へハ 尚統計上ノ数字ヲ表スニ付有利ナル方法ヲ講ス ル ノ要ナ

台労働者数ニ付テ之ヲ云へハ

大正十年八月十六日

国際労働理事会帝国政府代表者

犬塚勝太郎(印)

外務大臣伯爵

内田康哉殿

(1)其ノ範囲ヲ限定スルノ要ナキヤ

四人口トノ割合ヲ示スコト ノ利不利

白鉄道哩数ニ付テハ

イイ運転哩数ヲ示スコト有利ナラスヤ

四土地ノ面積トノ割合ヨリハ寧ロ山岳地帯ヲ除キタル 面積トノ割合ヲ示スコト有利ナラスヤ

別冊及進達候也

別

冊

八大工業国決定ニ関スル委員会ノ議事経過ニ関スル報告書

八大工業国委員会議事経過報告ノ件

||輪出入額ニ付テハ移出入額ヲモ加フヘキヤ

四分額方法

| 知殖民地ノ分ハ統計上ニ計上スヘキヤ

条約第三百九十三条所定ノ労働理事会ヲ組織スベキ八名ノ理八大産業国問題ニ関スル関係五省協議会協議案トハ対独平和 省及内務省ノ五省協議会ニ提出セラレタル案ナリ 定ニ必要ナル資料ニ関スル外務省、 ラルルニ付右調査委員会ニ出席ノ犬塚代表ニ送付スベキ右選 事ヲ任命スペキ八主要産業国ヲ選定スペキ調査委員会開催セ 農商務省、

記二

大正十年八月十六日犬塚労働理事会代表発内田外務大臣宛理第 一二六号

八大産業国委員会議事経過報告ノ件

理第一二六号

(九月二十九日接受)

八大工業国決定ニ関スル委員会ノ議事経過報告書

国ノ決定ハ聯盟理事会ノ権限ニ属スルノミナラズサンセバ 理事壱名チェコスロヴァキア、 準ヲ決定シ理事会ニ報告ヲ為サシムヘキコトヲ決議シ委員 第三九三条ニ所謂八大工業国ノ表ヲ作製スル為四名ノ委員 スチアン聯盟理事会ノ決議ニ依リ聯盟事務総長側ニ於テ希 オーノ指名アリ尋テ本年四月拾壱日開会ノ同上規則委員会 ニ於テ該八大工業国委員会ノ調査方法ニ関シ元来主要産業 トシテ政府側理事弐名仏国フォンテーヌ及本邦理事雇主側 ヲ指名シ一国ノ工業ノ重要程度ノ特質ヲ得ルニ足ルヘキ基 ァニ開カレタル国際労働理事会規則委員会ハ対独平和条約 曩ニ理第一四号ヲ以テ報告シタル通本年一月十三日ゼネヴ ホダチ労働側理事仏国ジュ

一〇 国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件

五三九

五七五

於テモ尚各自ノ意見ヲ提出シテ更ニ協議ヲ為スヘキコト竝 為シホダチョリハ其ノ覚書ノ提出アリタリ而シテ各委員ニ 望ノ次第モアリ聯盟事務局ト共同調査ヲ為スヲ適当トスト 国際労働事務局及ジニ教授ニ於テ統計的資料ヲ取纒ムヘキ 十三日及十四日ノ両日聯合委員会ヲ開会シ国際労働理事会 コトヲ約シテ散会シタリ シテ主要産業国決定ノ基準タル種々ノ事項ニ付予備協議ヲ ノ意見可決セラレ此趣旨ヲ以テ聯盟事務局ト交渉ノ末四月 ヨリハ前記ノ委員四名聯盟事務局側ヨリハジニ教授出席

表ヲ配付シタリ 員会ノ採用シタル基準ニ大体準拠シタル数字其 教授参会シ国際労働事務局長モ亦列席シテ華府会議準備委 労働省内ニ於テ開催セラレ国際労働理事会側ヨリハジュオ 越エテ七月二日八大工業国委員会ハコーペンハー ノ欠席アリタル外三委員出席シ聯盟事務局側ヨリハジニ ノ他ノ比較 - ゲン丁抹

当ナラサルコト富又ハ生産ノ比較ハ実用少カルヘキコト等 会事情ノ相違ニ依リ異ナルヲ以テ之ニ依リ比較ヲ為スハ適 本邦理事ハ前回提出アリタルホダチ覚書ニ付テ一般的批評 へ統計比較ノ困難ニシテ不完全ナルコト産業立法ハ社

> サルコトヲ述ヘタリ ヲ述へ又戦前ノ数字ニ依リ比較ヲ為サムトス ルハ穏当ナラ

製ン比較ヲ為スヘシトノ論ヲ為シジニ教授ハ農業労働者ハ 条約ノ英文産業ノ語ハ農業ヲ含ミ仏文ハ之ヲ含マサルカ故 説キ委員間ニ意見ノ交換アリ次テ農業ヲ基準ノ一ニ加 ルヘカラサルコトヲ指摘シタリ 之ヲ考慮中ニ加フヘキモ立法ノ適用ヲ受クルモノノミ ニ農業ヲ含ミタル統計ト之ヲ含マサル統計トニ様ニ之ヲ作 ノミヲ包含スルモノト解スヘキ旨ヲ述ヘタリホダチハ平和 ニ於テ農業ノ比較ヲ為ササリシ所以ヲ説明シ又平和条約第 キヤ否ノ問題ニ入リフォンテーヌヨリ華府会議準備委員会 フォンテーヌ亦各国ノ全生産額ヲ比較スル - 参篇ニ所謂「産業」中ニハ近代的産業化セラレタ 不可能 ル チ 農業 フヘ =

シタリ 業ヲ除外スルノ不可ナルヲ説キ少クトモ農業労働者ヲ考慮 府会議準備委員会ノ採用シタル方法ヲ襲フヘキコト ニ置クヘキコトヲ求メ本邦理事ハ実際的 内ニ属セストスル議論アルニ鑑ミ八大工業国ノ決定ニ付農 国際労働事務局長ハ現下農業ヲ以テ国際労働事務局 ノ便宜ノ点ヨ ・ヲ主張 八権限 リ華

於テ再会スヘキコトトシテ散会シタリ然レトモストックホ 質ニ従ヒ零ヨリ百ニ至ル比較価値ヲ付スヘキコトヲ述ヘタ セシメタルコト既報シタルカ如 ルモ何レモ採決ヲ為スニ至ラス七月七日ストックホルムニ 於茲フォンテーヌハ農業ヲ考慮ニ入ルルトスルモ基準ノ性 ムニ於ケル会合ハ本邦理事フォンテーヌト 内談ノ上流会

記三

第一九五号 議経過概要報告 八大産業国問題ニ関スル委員会十月二十八日及十一月一日ノ 大正十年十一月四日犬塚労働理事会代表発内田外務大臣宛電報

八大工業国問題ニ関スル委員ハ十月二十八日及十一月一日 第一九五号 ノ両日ニ渉リテ会合審議ヲ重ネタルガ其ノ経過概要左ノ通 (大正十年十一月六日接受)

importance ナル 語ノ 定義ニハ「コペンハーゲン」ニ於テ 布シ「ジニ」教授ヨリ大体ノ説明アリタリ右覚 書 ハ 本 問 題ノ基因ト委員会構成ノ由 「アンジロチ」ノ三委員合議作製ニ係ル覚書ヲ各委員ニ配 一、十月二十八日ノ会合ニ於テ「ジニ」教授「ホダチ」及 来ヲ 叙述シ chief industrial

五三九 之ヲ断ズベキ限リ 他面国内的ニモ等閑視スベカラザル社会現象タリト雖モ移 数ノ如キハ一面ニ於テ重要ナル国際的経済現象タル 終了ヲ見タル上ニ於テ又産業立法ヲ考慮ニ入ルルコトハ其 挙ゲ尚成年人口ニ対スル国庫収入額割合ニ付テハ其ノ統計 民ノ有無ガ果シテ産業発達ノ如何ヲ指示スルヤ否ヤハ直ニ テ然ル後定ムルコトニ略内議ヲ遂ゲ十一月一日会合ニ於テ 全人ロニ対スル馬力数国輸出入額内鉄道延長船舶噸数等ヲ 含マサルコト)口全人ロニ対スル工業人口割合に馬力数四 標準項目トシテハ右提案ニ代フルニ台工業人口数(農業ヲ 認メ十一月一日ノ会合ニ先立チ打合セヲ遂ゲタル結果選定 項目ニ依ルベキコトヲ主張セルモノニシテ右提案ニ付テハ 及之ガ適用ヲ受クル人口数臼成年人口(adult population) ハ代表ョリ前記覚書ニ対スル意見ヲ説明スル所アリ即移民 ノ調査ヲ続ケシムルモ採用ノ適否ニ付テハ其ノ結果ニ徴シ 本代表及委員長 Fontaine ニ於テ其ノ妥当ナラザルコトヲ ニ対スル国庫収入額巨輸出及輸入額鈎移出及移入民数ノ四 セル外八大工業国選定ノ標準トシテハ台産業立法発達程度 大体諒解セラレタル如ク農業ヲモ包含シ得ベキコトヲ記述 ニ非ズ又産業立法ノ如キハ成文律ノ多寡 共ニ

若シ委員間ノ意見遂ニ一致ヲ見ザルニ於テハ一 方 委 員 長 意見ヲ述ベ委員長モ亦之ニ賛成ノ意見ヲ表 明セル 少キモノアルベク而モ製造工業殆ド之ナキ小国ニシテ立法 意見ヲ提出スルコトトナルモ計リ難シ ニ」教授ニ於テハ大体ニ於テ原案ノ趣旨ヲ支持セルヲ以テ トナスコトノ適当ナラザルベキコト及其ノ他ノ諸点ニ互ノ ノミヲ有スルモノアルニ鑑ミ立法ノ有無ノ如キハ之ヲ標準 ノ上ニ急速ノ発展ヲ為セル国ニシテ産業立法ヲ有スルコト ノ程度ヲ測定セムトスルハ穏当ナラズ輓近工業造船貿易等 ノミニ依リテ習慣法ヲ度外ニ附シ労働者保護又ハ産業発達 「フォンテーヌ」及本代表等ハ最後報告ヲ作ルニ当リ別ニ ガ「ジ

生産数字ハ回答極メテ少キ事情モアリ旁々事務総長ニ於テ 照会セル統計ノ取調ニ対シテハ国富ニ関シテハ回答アルモ 回答スルコトヲ要求シ之ニ依リ更ニ審議ヲ続クルコトト 二、「ジニ」教授依頼ニ基キ 聯盟事務総長ヨリ 各国政府ニ ハ更ニ各国政府ニ書簡ヲ発シテ来年三月末日ニ資料統計ヲ Ť

四月十一日

五四〇

国富統計ニ関スル件 八大産業国選定ノ為聯盟事務総長ノ要求セル

- 記 右統計ニ関スル件 盟理事会代表宛書翰写 大正十年六月七日附聯盟事務総長ヨリ本邦聯
- _ 石井大使宛電報第七八〇号 大正十年八月二十五日内田外務大臣発在仏国
- 八大産業国問題調査資料ニ関スル件
- Ξ 右電報ノ別電第七八一号
- 四 務大臣宛電報第九〇〇号 大正十年六月十四日在仏国石井大使発内田外
- セラレ度旨聯盟事務総長ヨリ申越ノ件 八大産業国選定資料トシテ我国富統計ヲ提出
- 五 発内田外務大臣宛電報第一〇九号 大正十年六月二十五日在ローザンヌ犬塚代表 国富統計ノ提出方要請ニ関シ意見上申ノ件 聯盟事務総長ヨリ八大産業国選定資料ト

第二二号

在伊代理大使発第七五号ノ第五項ニ関シ

往電第七八〇号及第七八一号ニ基キ既ニ事務総長宛回答済(註2) 到シ居ラス 報告アリタルモ本邦ニ於テハ右事務総長ヨリ何等照会ニ接 リ本年三月末日迄ニ当該資料統計送付方要求越ノ筈ナル様 ニ非サルカ尤モ客年犬塚代表来電第一九五号末段二二各国(註四) 統計ニ関シテハ犬塚代表宛写郵送ノ筈ナル在仏大使宛客年 聯盟事務総長ノ客年六月七日附本邦聯盟理事宛申越ノ国富 ノ回答中生産ニ関スル数字ノ乏シキ事情ニ依リ事務総長ヨ ノコトト存セラルル処「ジニ」今回ノ報告ハ何等カノ行違

右ニ付必要ノ廉アラハ在仏大使館ト御打合セ事情御取調 上結果至急回電アレ ブ

聯盟事務総長ョリ本邦聯盟理事宛客年六月七日附申越ニ付 テハ次ノ附記一文書参照

在仏大使宛客年往電第七八〇号第七八一号ニ付テ

~ 附記

附記三文書参照

- 代理大使四月四日発内田外務大臣宛第七五号ノ附記三文書 客年犬塚代表来電第一九五号ニ付テハ前掲在伊国諸井臨時 参照
- 記

翰写 大正十年六月七日附聯盟事務総長ヨリ本邦聯盟理事会代表宛書

右日本ノ国富統計ニ関スル件

C.L. 21. 1921.

LEAGUE OF NATIONS.

Geneva,

June 7th, 1921.

Sir,

chief industrial importance. al Labour Office, with a view to establishing the criteria for determining which are the eight States of the instructed me to discuss the matter with the Internation-Organisation) of the chief industrial importance, has Members the duty of deciding any questions as to which are the trusted by Article 393 of the Treaty of Versailles with The Council of the League of Nations, being en-(of the Permanent⁾ International Labour

the the data necessary for settling the criteria this Committee is of opinion that in order industrial importance A Committee of experts has been appointed, and of a State should be judged to on which have all

should be taken into account in actually determining national wealth and production, although they are they cannot dispense altogether relative industrial importance of States. a position to decide how far such statistics with statistics of

works published by writers of established reputation. estimates prepared for use in important debates, or in your country, either in official publications or in official obtain the have accordingly the honour to request that you will States referred to in Article 393 of the I am communicating on this subject with all the following data, which doubtless exist for Treaty, and I

- # possible for 1913 or 1914. Private wealth of your country before the war,
- nation before the war, if possible for 1913 or 1914. Total estimated value of the production of your
- State, or to municipalities, or to other public bodies also for the period before the war, if possible for 1913 or 1914. Estimated value of property belonging to the

- the same date. any public debts of local or municipal authorities, for ÷ Total amount of the State public debt; and of
- at the same date within the State. Total amount of the above public debts held

documents relating to the years under review. on pre-war prices, which are those generally I should be glad if you would base these estimates

under the heading of industrial securities. property is represented by the shares already included and also industrial securities --national or foreign-- in companies should not be included, as the value of this the possession of the individuals or associations referred tions; this definition accordingly includes public funds, in a private capacity, by private individuals and associatotal of commercial property, and of property owned, On the other hand, the property of joint stock By the "Private wealth" of a

If the estimated value of the private wealth of

wealth (land, mines, livestock, building, etc...). country, distinguishing between the various classes both of the wealth and the total production of your which the valuation is based. explain exactly the definition of private wealth upon word "wealth", perhaps you would be so good as to your nation is based on very desirable to have the fullest possible details a different conception of the It would, in any case, of.

individuals or by State Departments, I should be grateful hand, the estimates are based on works published by employed in such investigation, and the source from possible, supply me with copies. which the data have been obtained. If, on the other result of hitherto unpublished investigations, I should you would furnish me with full particulars and, if much obliged if you could let me know the method If the estimates of wealth or production are the

been altered as a result of the war, the data asked for With regard to States the frontiers of which have

> in paragraphs 1, 2 and 3 above should apply pre-war population being allotted to territories which territory, a part of the Public Debt proportionate to the should also be calculated in respect to the post-war tions as a basis). The data of paragraphs 4 and 5 have been lost or acquired as a result of the war. post-war territory (but, of course, taking pre-war condito the

convenience to Professor Corrado Gini, League information for which I have asked at your early I should be much obliged if you would kindly send Economic and Financial Section, Geneva. of

such documents as are available for the purposes of its settled entirely I will understand that you wish me assume that your investigation Government is If I have received no answer by the end of August, by the Committee, with the aid of content to leave the question to be

I have the honour to be, Your obedient servant,

五四〇

五四〇

(Signed) Eric Drummond

Secretary-General

大正十年八月二十五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第 七八〇号

八大産業国問題調査資料ニ関スル件

第七八〇号

貴電第九〇〇号ニ関シ

通本邦ノ産業経済ハ大戦中異常ノ発達ヲ遂ケタルモノニシ ラルルコトハ極メテ不利ナルヲ免レサルノ外甚事実ニ遠サ シ居リ従テ右戦前ノ数字ヲ事務局ニ回示スルコトハ之ヲ否 ルニ大正八年末ニ於テハ右ハ八百六十億七千七百万円ニ達 テ前記戦前ノ国富総額ハ三百二十億四千三百万円ニ過キサ ニ発表シ得ル程度ノモノトハ申シ難キノミナラス御承知ノ 要別電(第七八一号)ノ通ナル処右ハ草卒ノ際調査作成シ 国勢院ニテ大正二年ノ統計ヲ基礎トシテ調査シタル結果大 聯盟事務総長ヨリノ申越ニ係ル戦前ニ於ケル本邦国富統計 カレルモノト謂ハサルヘカラサル次第ニモアリ且本件調査 ムヘキ筋合ニハ非サルモ之ヲ以テ本邦ノ産業状態ヲ推察セ タルモノニシテ政府ニ於テ十分信憑スヘキモノトシテ外部

> 致度シ 来電ノ如キ意見曩ニ申出ノ次第モアリタルニ付閣下ニ於テ 本邦産業発達ノ事実ニ付説明ヲ付シテ先方へ御回示アル様 モ右事情篤度御含ミ相成右統計ノ不備ナルモノタルコト及 ニ関シテハ犬塚代表ヨリ貴官ニ転電セシムへキ第一〇九号(註2)

尚別電ノ数字算出方法等ノ詳細及大正八年国富統計ノ詳細 ハ御参考迄ニ別ニ至急郵送スヘシ

本電及別電犬塚氏へ参考ノ為郵報アリタシ

- 註1 石井大使発内田外務大臣宛第九○○号ニ付テハ左掲ノ附記
- 2 犬塚代表発内田外務大臣宛第一○九号ニ付テハ左掲ノ附記 五文書参照

(附記三)

右附記二電報ノ別電第七八一号

第七八一号別電

| | 国家其ノ他ノ公共団体債務総額 ☆国家其ノ他ノ公共団体有財産 四、九○一、○一○ 门私人所有財産総額 国富総額 三二、〇四三、一三〇(単位千円以下同断) 二七、 一四二、1二〇 二、八五九、 五三〇

四右債務ノ国内所在額 一、一一七、六二〇

私有

三九九、〇一〇

額ヲ当該財貨ノ価額トシテ計上シタルモノナリ リ表示シ又其ノ財貨ノ価格ノ不明ナルモノニ付テハ右 存在シタル官公私有財産ヲ貨幣価額ヲ以テ表示シタル ヲ二十項ニ大別シ主トシテ箇々ノ財貨ヲ貨幣価格ニ依 合計ヨリ対外ノ債権債務額ヲ加除シタルモノニシテ而 ノ物ヨリ生スル利得若ハ加工価格ヨリ推算還元シタ シテ財産価額ノ算出方法ハ物的方法ニ依リ各種ノ財貨 (右ノ註) (一及口ニ計上ノ額ハ大正二年末本邦内地ニ ル

尚左ニ右財産中主要ナルモノニ付細目ヲ示スヘシ

//土地 官公有 一四七、 九九〇

私有 私有一三、六四七、 一、四六八、 四九〇 一九〇

い海湖川及港湾 官公有二、七六七、 四三〇

官公有一、

〇九八、

- ==0

(1)樹木

四鉱山

私有 六六二、〇二〇

官公有 三五、 11110

ば建物

公家具家財

私有 私有 三、四〇六、四〇〇 一、五六六、〇〇〇

> い水産品 少工産品 炒輸入品 (7) 水道 (以) 諸車 切橋梁 ル船舶 內金銀貨幣及地金 心鉱産品 (1)林産品 分農産品 (1)鉄道及軌道 伊家畜及家禽 **小製造工業機械** (以下)の迄官公有ヲ挙ケス) 官公有 官公有 官公有 官公有 国有鉄道ヲ含マス 官公有 官公有 九〇、 私有 私有 九四、 七六、 私有 私有 五 私有 二、七三〇 九八〇 八三〇 〇九〇 八五〇 八六〇 二四五、 七四七、 九八六、 四七一、二七〇 一五一、六七〇 一九二、 四〇 九 八五、 四七、 1100 二九〇 11110 四九〇 五八〇 八五〇 四六〇 五〇〇

一〇 国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件

五四〇

五八三

私有

六五五、七七〇以上

五四〇

目ニ亘リ国勢院ノ統計トノ差異ヲ説明シ難キモ右農商務調 及船舶等一、五七五、六四一千円トアリ右農商務省調査ハ 産一一、〇八六、五七八公共団体財産一三八、三七五千円 他公共団体ノ財産ハーー、二二四、九五三千円就中国ノ財 国有及公有財産ニ付前記細目ノ区別ヲ挙ケサルヲ以テ右細 戦前価格トスルモ甚シク事実ニ遠カレルモノアリ農商務省 前記臼及細目中ノ官公有財産ノ価額ハ主トシテ政府ノ帳簿 査ノ数字モ参考ノ為事務局へノ回答中ニ掲記シ置カレタシ タリ而シテ国ノ財産中土地ハ九、五一〇、九三七、営造物 ニ於テ実際上ノ価格ヲ計算シタルモノニ依レハ闩ノ国其ノ リ甚シキハ土地一坪九厘トシテ計上セルモノモアル由ニテ ニ記載ノ額ヲ採用シタルモノニシテ極メテ少額ニ見積リア

〇〇号 大正十年六月十四日在仏国石井大使発内田外務大臣宛電報第九

務総長ヨリ申越ノ件

第九〇〇号

八大産業国選定資料トシテ我国富統計ヲ提出セラレ度旨聯盟事 (六月十六日接受)

第八回聯盟理事会第三ノニ、八大工業国ニ関シ当時理事会 ハ事務総長ヲシテ労働事務局ト協議ノ上本問題決定ノ標準

> 委員会ノ研究材料トシテ戦前出来得可クハ一九一三年乃至 七日附書翰ヲ以テ原首相宛本件研究ノ為設ケラレタル専門 ヲ作ラシムルコトニ決議シタルカ右ニ基キ事務総長ハ六月 一九一四年ニ於ケル

industrial securities, national and foreign, in possession ty of joint stock companies of individuals and associations but not including properviduals and associations including public property owned in a private capacity by private indi-(一)我为私的国富 Total of commercial property and of funds and

畜類及ヒ建物等ノ estimated value of production (二)我生産ノ全価額 (以上ノ国富及生産額ト ^ 土地鉱 ノ事ナ Ш

(三)国家其他ノ公共団体ニ属スル財産額

(四)国家其他ノ公共団体ノ債務全体

(五)右債務ノ国内所在額

ムコト 求ムルト共ニ右統計算出方法及ヒ出所モ伴セテ通報セラレ 戦前価格ニテ評価シタルモノヲ示ス可キ統計材料送附方ヲ ヲ求メ来ル八月末マテニ回報ニ接セサ ル時ハ日本政

モノト思考スヘキ旨ヲ附言シ来レリ 府ハ本件委員会持合セノ材料ニ依り 問題ノ解決ニ異存ナキ

就テハ右然ル可ク御取計相成度シ

犬塚理事ニ郵報ス

記五)

請ニ関シ意見上申ノ件 外務大臣宛電報第一〇九号 聯盟事務総長ヨリ八大産業国選定資料トシテ国富統計提出方要 大正十年六月二十五日在ローザンヌ犬塚労働理事会代表発内田

往電第四九号ニ関シ(誰) 第一〇九号

(七月一日接受)

代表ハ斯クノ如キ事項ニ付正確ナル統計的資料ヲ得ルハ極 テ提議シタル項目ノーナルガ委員中「フォンテーヌ」及本 議ヲナセル際「ジニ」教授ヨリ八大工業国指定ノ基準トシ 題ニ関シ発シタル照会在仏大使ヨリ通報ヲ得タル処右照会 此ノ度国際聯盟事務総長ョリ帝国政府へ宛テ八大工業国問 メテ困難ニシテ基準トシテ適当ナラザルベシトノ説アリ之 ニ係ル「各国ノ富ノ程度」ハ本年四月調査委員会合予備協 ニ対シ同教授ハ其ノ容易ナルベキコトヲ弁明シ居リタ ナルガ其ノ後本件ニ関シ本代表「フォンテーヌ」ト · 巴 里 ルモ

> 於ケル統計ヲ資料トスルコト果シテ適当ナリヤ否ヤニ付テ 名ヲ以テ発送スベキモノナリト 国政府ニ対シ「フォンテーヌ」ノ名ヲ以テ照会ヲ発送セム 着手シタルニ右統計ノ意外ニ困難ナルコトヲ発見シ即チ各 モ疑問アリト存ゼラレ旁々右照会ニ対シテハ上述ノ事情御 ノ立場ヨリ見テ戦前即チ千九百十三年乃至千九百十四年ニ コトヲ求メタルモ「フ ノ照会ハ右ノ結果トシテ発セラレタルモノナルベキ処本邦 ニ」教授ハ次回ノ協議ノ材料トシテ統計的資料ノ取纒メニ ニ於テ打合セヲ為シタル折同人ノ語レル所 ノ上御回報相成様致シタシ ォンテーヌ」ハ寧ロ聯盟事務総長ノ シテ謝絶シタル趣ナリ今回 = 依 レバ

註 大正十年四月十七日在ローザンヌ犬塚労働理事会代表発内田 方ニ関シ報告セル 外務大臣宛電報第四九号ハ八大産業国調査委員ノ調査ノ進メ モノナリ

五四一 四月十二日 宛が橋内務、田中農商務、小橋内務、田中農商務、 秦逓信各次官

告ノ電報通報ニ関スル件 羅馬ニ開催ノ八大産業国委員会ノ 議事経過報

和一機密合第一九〇号

 \overline{c}

国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件

五四

(注土) (注土)

及卸衣頭侯 回示相成度代表代理来電写右ノ為別ニ一通相添への一遍子が成後代表代理来電写右ノ為別ニ一通相添への 追テ犬塚代表ニハ貴省ニ於テ御打合セ結果至急御

電報第七五号写ナリ 電報第七五号写ナリ

号ノ附記三ノ文書ナリ タ年十一月犬塚代表来電トアルハ右諸井代理大使発第七五

国富統計ハ暫ク送付ヲ見合ハシ居ル事情報告八大産業国選定ノ為聯盟事務総長ノ要求セル

ノ件

使館へモ通シ置キタリ往電第一九五号末段事務総長書翰ハク送付ヲ見合ハス方有利ナリヤト存セラルルヲ以テ其旨大害ヲ攻究シ回答ノ準備中ナリシカ臼ニ記ス事情ニ依リ今暫調ヘタル所ニ依レハ右ハ大使館と当地聯盟理事局ト打合セ取費電第二二号及往電在伊代理大使発第七四号ニ関シ第四五号 (五月十日接受)

口八大工業国委員会ハ今回聯盟事務総長ノ希望ニ依リ五月

翰写為念郵送ス

大正十年十一月二十一日附在仏大使館気付発送アリタリ書

十一日開催ノ聯盟理事会ニ報告書ヲ提出ノ予定(因ニ大工十一日開催ノ聯盟理事会ニテ討議セラルルニ至ルヤモ知レスト)ナルノ聯盟理事会ニテ討議セラルルニ至ルヤモ知レスト)ナルカ該報告書ハ委員会ノ採用シタル項目ヲ踏襲スルコトトナリタル所以ヲ説明シタルモノニシテ報告書附録トシテ各項目ニ対シ十八ケ国ニ就キ国際労働事務局ニ於テ蒐集シタル統計数字ヲ添付シタリ其内我国ニ関スル数字及順位ヲ示ストキハ左ノ通

位)
位)
立
、工業人口(鉱山及運送ヲ含ム)二百五十四万(第六

位) 位)

第四、鉄道延長ノ面積ニ対スル 割合 一〇二二二(第十三第三、鉄道延長一万四千九百「キロメートル」(第十二位)

第六、馬力数ノ人ロ数ニ対スル 割合 六〇二八二(第十六第五、馬力数百九十五万三千(第六位)

位

張擁護スヘキモ不取敢右事情報告ス 項目ニ対スル指数ヲ各国毎ニ合計シタルモノノ表ニ拠ルニ 国ノ内ニ入ルハ英、仏、独、白、 統計数字及之ニ依ル順位ノ定メ方ニ付テハ報告書及附録ノ 不利ハ益々甚タシ此報告書ニ対シテハ兎ニ角尠クトモ附録 項ニ過キス仮令従来御回付ヲ受ケタル資料ニ依リ訂正ヲ施 第七、商船噸数二百九十九万六千(第三位) 聯盟理事会ニ提出アル迄ニ異議ヲ述へ極力本邦ノ利益ヲ主 ラルルニ至リ又国際統計ヲ比較スル如キコトアラハ我国ノ ヲ受クル労働者数及其総人口ニ対スル割合等カ参考ニ供セ タ困難ニシテ為念附録ニ添付セラレタル労働保護法ノ適用 ニシテ日本ハ第十五位ニ下リ八大工業国ニ加フルコトハ甚 八大工業国ハ英、独、仏、白、(不明)印度、 ノヲ百トシ之ニ対スル他ノ諸国ノ数字ノ指数ヲ取リ更ニ各 テ日本ハ第十位トナリ又各項目ニ付最大ノ数字ヲ有スルモ ノ数ヲ合計シタルモノニ付各国ノ順位ヲ定ムルニ八大工業 スモ結果ニ於テハ殆ト大差ナク而シテ各項目ニ対スル順位 ニテ此統計ニ依レハ本邦ニ関シ八位中ニ入ルモノハ僅ニ三 加、伊、瑞西、 瑞西、 瑞典ニシ 諾威

五四二

 $\overline{\circ}$

-0

五四三 八大産業国委員会ノ聯盟理事会宛報告書中ノ 五月十二日 在ジュネーヴ聯盟理事会代表宛(電報)内田外務大臣ヨリ

キ様安達大使ニ指示ノ件 統計数字ノミニテ本邦ノ地位ヲ動カスコトナ

第一一号至急

安達大使へ

間ニ於ケル今日ノ地位及現ニ八大工業国ノ一国トシテ理事 国ノ地位ヲ動カサムトスルカ如キ意見ニハ同意スルコト能 ヲ派遣シ居レル事情ニ顧ミ単ニ右統計的数字ノミニ依リ帝 ニ統計的数字ノミヲ以テ決定シ難キノミナラス帝国ノ国際 否ヤ又産業上重要ナル地位ヲ占ムルモノナルヤ否ヤハ一概 トシテ十位以下トナル趣ナル処各国カ工業的ニ発達セルヤ ヲ報告スル筈ニシテ之ニ引用ノ数字ニ依レハ帝国ハ工業国 電ニ依レハ該委員会ハ今次ノ聯盟理事会ニ其ノ研究ノ結果 ニ従事シ居タルカ最近貴地ノ本邦労働理事事務所ヨリノ来 準ニ関シテハ御承知ノ通該理事会ニ於テハ勿論聯盟理事会 国際労働機関ノ理事会ニ於ケル八大工業国ノ決定及其ノ標 ノ問題トモ為リ之カ為八大工業国委員会ヲ組織シ之カ研究

> ニシテ近ク其ノ成案(マハイムノ原案ニシテ本邦ヲ加ヘタ 理事会ニ於テハ目下労働篇ノ当該規定ノ改正ニ関シ審議中 ハ今少シク八大工業国ノ決定ヲ見合ハスコトモ可能ト思考 ヘキ状勢ニ在ル模様ナルヲ以テ其ノ運命如何ニ依リテハ或 ル六国ノ国名ヲ明記シテ之ヲ常任国トスルモノナリ)ヲ得 ハサルヲ以テ万一右ノ議起ルトキハ反対セラレタク尚労働

本問題ノ由来及経過ノ詳細ニ付テハ貴地ノ労働理事事務所 ノ諸官ヨリ御聴取アリタシ

五四四 五月十二日 内田外務大臣宛(電報)コリコリオーヴ土屋労働理事会代表代理在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

数字ニ付委員会議長等トノ折衝報告竝参考資八大産業国委員会報告書ノ日本ニ関スル統計

料回示方稟請ノ件

(五月十三日接受)

往電第四五号ニ関シ

第四七号

長ニ対シ聯盟理事会ニ提出スベキ委員会報告書附録書類中 取敢へズ八大工業国委員議長タル「フォンテーヌ」及事務局

本件ニ付テハ目下寿府滞在中ノ安達大使トモ打合セ置キタ 計院及伊国政府ヨリモ抗議アリタルコトヲ述ベタリ モ考慮ニ加へ一般的見地ヨリ之ヲ定ムルノ必要ナルヲ説キ 定スルニ当リ植民地ヲ包含スル総人口及総面積ヲ採用シタ 会見シ本邦労働者数其他ノ数字ノ不完全ナル殊ニ割合ヲ算 タルニ該係員モ之ニ賛成シ統計数字ニ関シテハ既ニ仏国統 ルノ不公平且ツ不合理ナルコトヲ其他諸種本邦特殊ノ事情 トヲ注意シ置クト共ニ一方統計表作成者タル事務局係員ニ 申送リ又報告書其モノニ付テモ改良ノ余地ナキニ非ザルコ ヲ述べ順位決定ニ付テハ華府労働総会(脱)以外ノ要素ヲ 日本ニ関スル統計数字及順位決定方法ノ承認シ難キコトヲ

五四五

五月十三日

内田外務大臣宛(電報)コリコリ・ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

鉄道従業員以外ノ陸上運送者ノ員数 軽便鉄道、軌道従業員、自動車運転手及人力車夫官設 タルベキ材料ヲ大至急御回示相煩ハシタシ

聯盟理事会ニ於テ行フベキ見込ノ処参考資料トシテ内地ノ

ルガ尚事務局員ノ語ル所ニ依レバ該報告書ノ討議ハ六月ノ

ミニ付左記ノ統計数字又ハ其概数岩ハ全数ヲ推定スル基礎

総噸数二十噸未満ノ船舶又ハ平水航路ヲ航行スル船舶等 船員手帳ノ持参ヲ必要トセザル船員ノ総数即チ船員中 $\overline{\circ}$

ニ乗組メル者ノ総数

三、日本形水車(精米所小規模製品工場等ニ於テ使用セル ガ如キ) ノ馬力総数

八大産業国委員会報告書ニ対シ聯盟側委員ウ

ッド氏モ異論アル旨報告ノ件

第四八号

(五月十四日接受)

業国中ニ加ハリ居ラザルコトヲ意外且ツ遺憾トシ居レリ八 字ノミニテハ現ハシ難キ要素アルコトヲ認ムルヲ以テ報告 大工業国委員会ハ五月二十二日「ジュネーヴ」ニ於テ会合 宛申送リタル由ニテ尚該附録統計表ニ依レバ日本ガ八大工 加フベキ事項アルコトヲ附記スベキ旨ヲ「フォンテーヌ」 中ニ於テ数字ハ参考トシテ掲記スルモ数字以外ニ猶考量ニ ニ同氏モ異議ヲ有シ報告書ト附録統計表トヲ対照スルニ数 ル処聯盟側委員「ウッド」ノ該報告書ニ対スル意見ヲ聞ク 八大工業国委員会報告書ハ未ダ聯盟理事会ニ提出ニ至ラザ 往電第四五号及第四七号ニ関シ

国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件 五四五

五八九

スルコトニ内定シタリ

往電第四九号ニ関シ 第五〇号

五四六 五四七

(五月二十一日接受)

五四六 五月十七日

内田外務大臣宛(電報)コリコリン土屋労働理事会代表代理在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

催ヲ決定ノ件 アル為聯盟理事会ニ提出前ニ最後ノ委員会開 八大産業国委員会報告書統計ニ付委員ノ異議

第四九号

(五月十八日接受)

要ナルニ鑑ミ目下当「ジュネーヴ」滞在中ニテ八大工業国 業国委員会ノ出席者ニ故障ヲ生ジタル処該委員会ノ特ニ重 従ヒ六週間ノ隔離ヲ必要トシ差当リ二十九日開催ノ八大工 ス病症ハ軽微ナル方ニテ生命ニハ別状ナキ由ナルモ規則ニ 土屋書記官突然発病診察ノ結果猩紅熱ト確定シ十七日入院

予メ安達大使ノ内諾ヲ得テ請訓ス

塚代表代理トシテ該委員会ニ出席アル様御配慮ヲ得度ク右 問題ニ付テハ従来打合ヲ為シ来リタル安達大使ヲ煩ハシ犬

往電第四八号ニ関シ

八大工業国委員会報告書統計ニ就テハ委員ヨリ異議出デタ 会スルコトトナリ会合ノ期日ハ五月二十九日ト変更決定シ ル為目下開会中ノ聯盟理事会ニ提出セズ「フォンテーン」 ノ提議ニ基キ聯盟理事会ニ提出ニ先立チ最後ノ委員会ヲ開

五四七 五月十九 Έ 内田外務大臣宛(電報)コリコリオーヴ土屋労働理事会代表代理在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

安達大使ノ八大産業国委員会出席方稟請並統 計数字ニ依ル決定ニハ相当反対アル旨報告ノ

又調査部長「ポーカー」博士モ数字ヲ唯一ノ標準トスルト 大工業国ヲ仮定シテ数字ヲ蒐集シタルモノナルコトヲ洩シ キハ失敗ノ原因ナリトテ例へバ或国ノ労働者数中ニハ「ホ 様ニテ例へバ事務局副局長「バットラー」ハ私談ノ際八大 追テ統計数字ノミヲ決定ノ標準トスルニハ相当反対アル テル」従業者ヲ包含セシメ居リ統計基礎ノ公正ナラザル ズル虞アルヲ語リ華府労働会議準備委員会ノ当時ハ予メハ 工業国ノ決定ニ数字ノミヲ基礎トスル時ハ意外ノ障害ヲ生 ヲ述ベタリ又華府会議準備委員会当時ョリ今日迄ニ各国

ト云フ 委員会ノ数字ニハ誤謬多ク今日ニ於テハ基準トハナシ難シ 産業重要ノ程度ヲ変更スベキ著シキ変化アリタリトハ思考 セラレズトノ疑問アルベキ処統計係員ノ談ニ依レバ本来右

五四八 五月二十日 内田外務大臣宛(電報)コリコリオーヴ土屋労働理事会代表代理在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

局作成ノ戦前数字ニ依ル比較統計中日本ノ分 八大産業国委員会報告書附録追加トシテ事務

(五月二十一日接受)

ニ就テハ異議ヲ申送リタリ

往電第五〇号ニ関シ

戦前数字ニ依ル比較統計ヲ事務局ニ於テ作成配付シ来リ 工業人口二百五十万第六位最高数ヲ有スル国ノ数字ニ対ス テ報告シタル現在数字ニ依ル比較統計ノ外更ニ参考トシテ 八大工業国委員会報告書附録追加トシテ往電第四五号ヲ以 ル所ニ拠レバ日本ニ関スルモノ左ノ通 ル指数一二、三 タ

> 而シテ順位ノ総計ヲ比較シテ八大工業国ヲ定ムル時ハ英、 商船噸数百七十万八千噸第五位指数九、 動力数百万馬力第九位指数九、二 独、仏、白、 鉄道延長一万三千三百粁第十一位指数二一、 ニテ日本ハ合計七二、四第十五位トナル日本ニ関スル数字 ルニ英、独、伊、白、印度、加奈陀、瑞西、伊太利 一第十二位トナリ指数ノ総計ヲ比較シテ八大工業国ヲ定ム 一平方粁ニ於ケル鉄道延長、〇一九八第十一位指数六、 人口割動力数、〇一四第十四位指数三、四 伊、瑞西、瑞典ノ順序ニテ日本ハ合計七

五四九 五月二十二日 報) 在ジュネーヴ聯盟理事会代表宛(電内田外務大臣ヨリ

席方安達大使ニ指令ノ件 八大産業国委員会ニ犬塚代表ノ代理トシテ出

第一七号

安達大使へ

工業人口ノ総人口ニ対スル歩合三、五第十五位指数一〇、七 八大工業国委員会ノ報告ニ関シ更ニ研究ノ為同委員会ノ開

国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件 五四八 五四九

五九一

五五 内訳

五九二

州平水航路ヲ航行スル登簿船(汽船及帆船)及

不登簿汽船並総噸数五噸(又ハ積石数五十石)

依リ切角帝国ノ利益ヲ支持セラレタ 催アルニ付テハ貴官ニ於テ御面倒乍ラ犬塚政府代表ノ代理 シテ右ニ出席アリタク日本全権宛往電第一一号ノ趣旨ニ

五五〇

五月二十二日 宛(電報) 在ジュネーヴ労働理事会代表事務所内田外務大臣ヨリ

答ノ件 八大産業国決定ノ為ノ参考資料稟請ニ対シ回

第三五号

||総数

正九年末調)ヲ挙クレハ七四、〇〇〇人ナリ 尚御照会以外ナルモ念ノ為船員法ノ適用アル

四三一馬力(大正九年末推定数)

帆船ノ船員一四一、〇〇〇

回総噸数五噸(又ハ積石数五十石)

未満ノ船舶

ノ船員一二四〇、〇〇〇

船員数

子

以上総噸数二十噸(又ハ積石数二百石)未満ノ

貴電第四七号末段ニ関シ統計材料左ノ通

()総数 八六九、一三五人 (大正十年末調)

軽便鉄道従業員

軌道従業員 \equiv

自動車運転手

荷牛馬車運送従事者 人力車夫 五六六、

七八、

口総数 三八一、〇〇〇人(大正九年末推定数) 其ノ他ノ陸上運送者 四

モノニ非サルヲ以テ報告中ノ数字ノ誤謬ヲ指摘シ若ハ我ニ

一四、 三四八 〇六二 九七九 五五七 八〇四 四八八 八九七 相違ナキモ之ノミニ依リテ決定スルカ如キハ正鵠ヲ得ヘキ 八大工業国ノ決定ニ付テハ統計的数字ハ主要ナル材料ニハ 貴電第五一号ニ関シ 第三六号 五五一 渉ニ深入セザル様指示ノ件 八大産業国決定問題ニハ統計的数字ノミノ交 五月二十二日 宛(電報) 在ジュネーヴ労働理事会代表事務所内田外務大臣ヨリ

右ノ決定ハ大局ヨリ之ヲ視テ行フヘキモノナルノ趣旨ニテ 求ムルコトヲ是認セサルヲ得サルカ如キ羽目ニ陥ラサル様 数字ニ関スル交渉ニ深入リスルノ結果ヲ来シ標準ヲ数字ニ 折衝アリタク右念ノ為 有利ナル材料ヲ提出スルハ素ヨリ然ルヘキ処置ナルモ余リ

尚安達大使へ代理トシテ出席方電報済

六月一日 内田外務大臣宛(電報)在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理コ

及委員会決定ノ聯盟理事会へノ報告書要点報 八大産業国委員会ノ審議ノ模様並我方ノ主張

第五六号

(六月二日接受)

往電第四九号二関

安達大使ヨリ

労働事務局ニ於テ会合シ労働理事会側ヨリハ議長「フォン テーヌ」及安達及吉阪聯盟事務局側ヨリハ「ジニ」及「マ 八大工業国委員会ハ五月二十九、三十日及三十一日ノ三日 キノン、ウド」出席シ尚事務局長「アルベル、トーマ」モ

業国トナリ此際統計以外ノ材料ヲ斟酌スベキコトヲ強ヒテ 答セリ而シテ其結果日本ハ統計ノミノ比較ニ依ルモ八大工 論及シテ日本ノ亜細亜ニ於ケル特殊ノ地位其固有ノ古キ文 ズ理事会ニ議席ヲ有スル様統計数字ヲ整理スベキコトヲ明 ハ各員ノ注意ヲ深甚ナラシメ「トーマ」ノ如キハ日本ノ必 他ヲ斟酌シテ統計数字ヲ校正セシメタリ右本邦委員ノ陳述 シテ直接統計係ト交渉セシメ最近御通報ヲ受ケタル資料其 ニ国際労働事業ニ参加スルノ必要ヲ反覆力説シ一方吉阪ヲ 化ノ結果トシテ労働法制ニ於テモ一種ノ妙味ヲ有シ其ノ常 国際司法裁判所規程第九条議定ノ由来及判事選任事情等ニ 最近工業進歩ノ速度及其常ニ規則立チテ向上スルコトヨリ 打破スルノ必要ヲ認メ日本立国ノ基礎ノ工業タルコト日本 ミニ依リ八大工業国問題ヲ決定スルニ傾キタルニ鑑ミ之ヲ ル数字ノ校正ヲ要スルコトヲ指摘シタル後議事形勢数字ノ ウド」等ノ発言アリ次ニ本邦委員ハ附録統計中日本ニ関ス 見書ノ条項ニ就キ夫々賛否ヲ述べ「ジニ」及「マキノン、 常ニ議事ニ参加シタルガ労働理事会側ノ「ポダチ」及「ジ サレタル聯盟事務総長及「マキノン、ウド」並吉阪ノ各意 ーオー」ハ共ニ欠席ス劈頭議長ハ其報告書案ニ対シ提出

業ヲ除外シ之ヲ雇傭労働者ニ限定シ農業労働者モ亦算入セ 委員会ノ採用シタル所ニ依ル但シ産業人口ニ付テハ家内工 最後ノ報告書ヲ起草シタリ報告書中重要ナル部分左ノ通 場ニ於テ物質的統計的考察ヲ為スコトヲ求メ居リタルヲ以 ルノミナラズ委員中ニハ統計学者アリ純然タル専門家ノ立 要求スルハ既ニ確定セル我国ノ地位ヲ却テ不安ニ導ク虞ア シ又ハ統計以外ノ考察ヲ為スペキコトヲ要求セズ委員会ハ テ御訓電ノ次第モ有リタレドモ其儘トシ強ヒテ統計ヲ排斥 八大工業国ヲ決定スヘキ標準項目ハ華府労働会議準備

特ニ印度其ノ他ノ諸国ノ抗議ノ審査ニ使用シ得ルコト 長ニ限リ人口稀薄ナル為交通必ズシモ頻繁ナラザル場合ア 日迄各国ノ訂正ヲ認ムルコト 四、統計数字ニ付テハ委員会ハ責任ヲ取ラズ尚本年十月末 三、国富統計へ順位決定ニ関シ参考トシテ使用シ得ル 目ニ対シテハ割合項目ニ比シ二倍ノ価値ヲ付ス但シ鉄道延 二、上述項目中絶対項目及割合項目ノ価値ヲ区別シ絶対項 ル故絶対項目ナルモ価値ハ割合項目ノ位置ニ止ムルコト コト

八大工業国決定方法トシテハ各項目統計数字ノ大小ニ

計ノ比較表ヲ作製比較スルコト 依ル順位数合計ノ比較表及各項目毎ノ最大数ニ依ル指数合

記スルコト セラルヤモ計リ難キ旨聯盟理事会ノ参考迄報告書末尾ニ附 リ波蘭モ国境改定ノ結果ニ依レバ之レ又大工業国中ニ包含 義ニシテ印度、瑞西、瑞典等モハ大工業国ニ入ルノ見込ア ルコトハ確実ニシテ問題ナク之レニ次グ国ハ 六、前記比較ノ結果ニ依レバ英仏独伊及日本ガ大工業国タ 加奈陀及白耳

因ニ今回委員会ヲ通過シタル報告書附録統計中順位数統計 国ヲ明記シ爾余ハ総テ選挙ニ依ルコトトナスヲ可ナリトス トヲ免レザリシコト等ヨリ判断スルモ条約第四百二十二条 七、今般査定ノ困難ナリシコト及之ニ対シ反対論アリシ ル労働理事会ノ考案ヲ特ニ聯盟理事会ニ指摘スルコト ニ依リ条約ヲ改正シテ労働理事会ニ永久議席ヲ有スル或ル

表ニ依レハ第七位トナリタリ此ノ変更ヲ来シタル主ナル理 ニシテ前述報告書草案ニ対スル吉阪意見書ハ第一段ニ日本 シメ絶対項目ノ価値ヲ割合項目ノ倍トナシタルニ依ルモノ 三十五万ト訂正シ人口数及面積ハ日本内地ノミニ付計上セ 由ハ産業人口ヲ五百万鉄路延長ヲ一万五千粁馬力数ヲ三百

事会ニ提出セラルル筈ナリ 記述シタルモノナリ尚委員会報告書ハ七月十五日ノ聯盟理 題ノ意義及理事会ノ職分ヲ問ヒテ統計数字ノ外政治上社会 消費額並仕上品及製造品ノ輸出入額比較ヲナシ又工業発達 準トシタル等ハ不合理ナルコト第二段ニ順位決定方法ニ関 上其他諸種ノ非統計的要素ヲ考慮セザルベカラザルコトヲ 速度ヲ考量ニ加フベキコト最後ニ結論トシテ八大工業国問 難キコト第三段ニ華府労働会議準備委員会採用項目ハ欠点 適用ヲ受クル人口数ノ統計比較及戦前比較統計表ノ承認シ シ絶対項目ト相対項目トニ付価値ヲ同一ニスルハ不合理ナ 算出スルニ当リ朝鮮台湾等ヲ包含スル総人口及総面積ヲ標 アルコトヲ報告書中ニ記載シ該項目ノ外石炭及鉄ノ生産及 ルヲ以テ相対項目ノ価値ヲ減少スベキコト其他労働立法ノ ニ関スル産業人口鉄路延長馬力数等ニ誤謬アルコト割合ヲ

仏へ郵送セリ

各選挙ニ於テ選挙人ハ裁判所ノ裁判官トシテ指定セラルル国際司法裁判所規程第九条左ノ通 切ノ者ガ必要ナル資格ヲ各自具備スベキノミナヲズ総体トシ各選挙ニ於テ選挙人ハ裁判所ノ裁判官トシテ指定セラルル一 テ重ナル文明ノ形態及世界ノ主タル法律ノ系統ヲ代表スペキ コトニ留意スベシ

> 五五三 六月三日 (電報) (電報) 内田外務大臣ヨリ

土屋発電報第五六号ノ一部再電方及他諸国ノ 数字郵送方訓令ノ件

第四〇号

貴電第五六号ニ関シ

☆続キーノ末尾「鉄道延長ヲ一万五千粁」ト 間再電アリタシ 「訂正シ」ノ

口尚参考ノ為他ノ諸国ノ数字可成詳細至急郵送アリタ シ

五五四 六月六日 内田外務大臣宛(電報)在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理コ

往電第五六号ノ 一部再電方指令ニ対シ回答ノ件

第五八号

(六月七日接受)

貴電第四〇号ニ関シ

訂正シ 第一、鉄路延長ヲ一万五千基米突馬力数ヲ三百三十五万

第二、関係書類郵送スミ

尚各国統計数字ニ就テハ訂正ヲ申込ミ来ルモ ノ有ル可 ク就

国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件 五五三 五五四

五九五五

殿方钼質度確ナル数字ヲ得ラルル時ハ之ニ依リ訂正セシメタク右御通確ナル数字ヲ得ラルル時ハ之ニ依リ訂正セシメタク右御通ヤニ予想セラルル処本邦ニ於テモ来ル十月迄ニ一層有利正中馬力数ニ就テハ各国急速ノ発達ニ件ヒ幾分ノ変更ヲ見ル

リ修正シ採録セリ 前掲第五六号「鉄道延長一万五千粁」云々ノ部分ヲ本電ニ依

五五五 六月六日 内田外務大臣宛(電報)

事務局長トーマ談話ノ件員タルコトニ付波瀾生ズル虞アルコト等労働十月ノ労働総会ニテ日本ノ労働理事会常任委

スル諸条約ノ批准一向ニ相運バズ斯カル国ノ協力ヲ求ムル処右ノ如キ好都合トナリタルハ「アルベール、トーマ」ノ処右ノ如キ好都合トナリタルハ「アルベール、トーマ」ノ政治的観察大イニ会員ノ判断ヲ動カシタル次第ナルガ同氏政治的観察大イニ会員ノ判断ヲ動カシタル次第ナルガ同氏政治的観察大イニ会員ノ判断ヲ動カシタル次第ナルガ同氏政治の観察大イニ会員ノ判断ヲ動カシタル次第ナルガ同氏政治の経済を表して、「六月七日接受)第六八号

巴里、「ジュネーヴ」郵報ズミ

巴里、「ジュネーヴ」郵報ズミ

巴里、「ジュネーヴ」郵報ズミ

巴里、「ジュネーヴ」郵報ズミ

一世界的構成ニ如何程ノ効果アリヤト毎度嫌味ヲ述

一時事件ニ関スルト同様寛宏ナル態度ヲ執リ得ル様御措置

「対事件ニ関スルト同様寛宏ナル態度ヲ執リ得ル様御措置

「対事件ニ関スルト同様寛宏ナル態度ヲ執リ得ル様御措置

「ジュネーヴ」郵報ズミ

五五六 八月十四日 ョリ 在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

キ旨進言ノ件本邦委員ハ予メ弁明資料ヲ準備スルヲ要スベ本邦委員ハ予メ弁明資料ヲ準備スルヲ要スベ次回労働総会ニ於テ問題トナルベキ諸点ニ付

会ニ於テハ議題第一理事会組織改正ノ件ニ付八大工業国ノ次回総会ニ関シ本邦委員一行不日出発セラルヘキ処次回総第九四号

間短縮ヲ希望スル者ハ総会ノ機会ニ於テ日本ノ華府条約案 Harold Cliff ノ議論ニ明ラカナル如ク日本印度等ノ労働時 cotton spinners and manufactures 第十一回会合ニ於ケル 等上程ノ見込多キモノ 備セラレ度ク若シ時間制其ノ他ノ労働条約案ノ批准不可能 置ニ付疑義ヲ抱ク者無キニ非ス且 六月 中旬「ストッ 異議ヲ持出スモノ無キヲ保セサルヘク又事務局長報告労働 労働時間制条約案改正ノ件及ヒ各国工場監督制度改善ノ件 近労働事務局外交部長ト会談ノ際其ノ語ル所ニ依レハ華府 年度総会ニ付テハ今回ノ総会ニ於テ夫夫提案アルヘキ処最 ヲ釈明シテ諒解ヲ求ムルモ一方法ナリト思料セラル因ニ来 ナリトセハ英国政府ノ執リタル態度ノ如ク此ノ際其ノ理由 採用ヲ要求スヘキヤニ予想セラルルニ付相当弁明資料ヲ準 条約案ニ対スル各国措置ノ問題ニ付テモ同様帝国政府ノ措 労働代表ノ異議ヲ申シ出テタル如ク日本ノ地位ヲ嫉視羨望 制度ヲ廃シ六特権国ヲ設定シ日本ヲ其ノ一ニ加フルニ対シ ルム」ニ開カレタル International Federation of master スル者又ハ労働条件ノ向上ヲ望ム者等ヨリ再ヒ総会ニ於テ テハ嘗テ議事規則委員会ニ於テ伊太利使用者代表及ヒ和蘭 ノ如シ前者ハ英国ニ於ケル批准難ニ クホ

ル前提トシテモ必要ナリト観察セラレ居レリトスル国ヨリ既ニ申出アリ引続キ安全設備問題ノ討議ニ入トスル国ヨリ既ニ申出アリ引続キ安全設備問題ノ討議ニストスル国ヨリ既ニ申出アリ引続キ安全設備問度ヲ設立セントスル国ニリスラヴ」ノ如ク新タニア・ハーリニナラスを者へ批准条約案ノ実施監督ト密接ノ関係アルノミナラスを者へれている。

八大産業国選定ノ資料日本官公有財産ノ価格 内田外務大臣宛(電報) 中田外務大臣宛(電報) 在ジュネーヴ土屋労働理事会代表代理

調査年月二関シ問合ノ件

ルモノトセバ該出版物二部御送附相成度シ 窓毎八月外務大臣発在仏石井大使宛第七八一号ニ関シ農商 務省ニテ実際上ノ価格ニ就キ調査シタル官公有財産ノ価格 調査年月ニ関シ「ジニ」教授ヨリ照会アリタルニ付テハ至 調査年月ニ関シ「ジニ」教授ヨリ照会アリタルニ付テハ至 (注)

ノ附記三ノ文書参看日内田外務大臣発在ジュネーヴ安達代表代理宛電報第二三号註 外務大臣発石井大使宛電報第七八一号ニ付テハ前掲四月十一

五五七

タルモノナルヲ以テ仮令細目ニ亙レルモ正確ナラサル

五五八 八月二十二日 宛(電報) 在ジュネーヴ労働理事会代表事務所内田外務大臣ヨリ

八大産業国決定問題資料最近ノ統計数字通報

| 国大工左官等工場職工ニ非サル工業労働者

第六二号

貴電第五六号委員会報告四末段ニ関シ

最近ノ統計数字左ノ通

詳細ハ代表一行ニ託送ス

第一、労働者数

台国有鉄道従業員

一九二二年三月末

一六八、三七四人

口地方鉄道従業員

一九二〇年末

一七、八二四人

| | 軌道従業員

一九二一年末

三七、六四七人

右ハ往電第三五号台ノ数字ヨリモ著シク減少シ居ルモ 一九二一年末 七五〇、五〇二人

前回ノ分ハ内務省ヨリ各府県ニ電照シ大体ノ数ヲ調

調査方針ニ相異アル結果ナリ ⁽⁾工場労働者 本労働者数カ以前ノ分ニ比シ著シク減少セルハ地方庁ノ 一九二二年末 (農商務統計ニ依ル人夫ヲ除ク) 七〇七、九三四人

佣私設工場

工場法適用工場ハー九二〇年末

四〇一、六九一人

工場法非適用工場ハー九一九年八月末

三一六、九四〇人

一九二〇年末

⑵官設工場

一九九、九八七人

(中人夫 各一九二〇年末)

②官設工場 **闸私設工場** 九四、〇〇四人 =四六〇人

一九二一年三月末 二、二〇〇、九〇〇馬力 (運輸関係)

出鉱山労働者

一九二〇年末

四三九、一五九人

|八航海業ニ従事スル労働者(逓信省調)(推算)

一九二一年末

一、四三八、五〇〇人

(高級海員ヲ除ク)

(2)鉱山ニ於テ使用スルモノ (電力ヲ除ク)

(1) 凡テノ目的ニ使用スル電力ノ発生ニ使用セラルル総馬 力(官営私営共)但シ此ノ電気ニ依リテ運転スル電動 一九二〇年末 四三三、九二八馬力

機ノ馬力ヲ除ク各一九二〇年末

闸水力 一、四〇〇、〇〇〇理論馬力 七二四、〇〇〇馬力

尚一九二〇年末工事中ニ属スル馬力数ハ ^囚汽力及瓦斯力

水力 一、九一四、〇〇〇理論馬力

的水産労働者及林業労働者数ハ往電客年第六七号三、

トヨリモ新シキ調査ナシ

ニ上ルヘキモ推算困難ナルヲ以テ計上セス

尚此ノ外船員ヲ常職トスル予備員アリ其ノ数相当多数

其ノ他ハ往電第三五号臼内訳ノ通

船員法ノ適用アル船舶ノ従業員 五七、五〇〇人

第三、船舶ノ「ネット、 汽力及瓦斯力 トンネージ」各一九二一年末 二三五、〇〇〇馬力

回同百噸未満ノ船舶 **(小総噸数百噸以上ノ船舶** 二、三二三、七八七噸 八六五、三九八噸

(1)工場ニ於テ使用スルモノ

(電力ヲ除ク)各一九二〇年

備考 汽船へ全部帆船へ総噸数五噸以上石積船へ十石ヲ 一噸ニ換算ス 三、一八九、一八五噸

第四、 鉄道及軌道哩数

国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件 五五八 四国有鉄道ニ於テ使用スルモ

ノ(工場ニ於テ使用スルモ

公官設工場 卵私設工場

一、二四三、三四〇馬力

二二一、六七八馬力

ノ及電力ヲ除ク)

五九九

第六七号

(イ国有鉄道(川地方鉄道(八軌道

各一九二一年三月末調

(八一、三一八哩八分計九、七九七哩七分 営業哩数ハ夫々分六、四八四哩七分四一、九九四哩二分

軌道延長ハ夫々Ⅵ一〇、二四○哩六六鎖闰二、四三七哩 一九鎖約二、〇四五哩三六鎖計一四、七二三哩四一鎖

第五、輸出入額及移出入額

一九二一年中ニ於ケル総額

山輸入額 (1)輸出額 一、六一四、一五四、八三二円 一、二五二、 八三七、 七一五円

(八内地(樺太ヲ含ム)対朝鮮及台湾移出入額

(門移出額 四四、四二六、一九八円

②移入額 一一六、三三二、四〇一円

右第一項乃至第五項ハ全部殖民地ノ分ヲ含マス

五五九 八月二十五日 宛(電報) 在ジュネーヴ労働理事会代表事務所内田外務大臣ヨリ

調査年月二関シ回答ノ件 八大産業国選定ノ資料日本官公有財産ノ評価

> 貴電第四四号ニ関シ 二、右ニ関スル出版物ナシ 一、該官公有財産ノ評価調査年月ハ大正四年三月末日ナリ

五六〇 九月二十三日 内田外務大臣宛(電報)在ジュネーヴ聯盟理事会代表ヨリ

聯盟理事会秘密会ニ於テ八大産業国指定議決

ニ付石井代表ヨリ報告ノ件

第六八号

(九月二十四日接受)

石井ヨリ

伊、日、白、加奈陀、印度ノ八大工業国ト指定スルニ決 二十二日理事会秘密会ハ本使ノ提議ニ依リ英、 不日公会ニ於テ本件ヲ議決スルコトトナレリ

英、仏、独、伊及白へ郵送セリ

註 九月三十日午後ノ聯盟理事会ニ於テ右決定ノ公表アリタル旨 第一○三号ヲ以テ報告アリタリ 十月一日在ジュネーヴ聯盟理事会代表発内田外務大臣宛電報

五六一 十月十一日 内田外務大臣宛在白国安達大使 (電報)

条約案ノ批准実行及労働理事会組織改正ニ関 第四回労働総会ニ於テ問題トナルベキ労働諸

シ白国労働代表談話ノ件

ナル不正ナリト主張スル者近来頗ル多シト聞キ懸念ニ堪へ 実施スルノ意嚮無キガ故ニ日本国ヲ特権国ト為スコトハ大 ルコトヲ主張セシメ労働理事会ノ採択スル所トナリ今次総 対スル日本国ノ重要ナル位置ヲ認メ規則改正委 員 長 タ ル 正ノ件ニ言及シ白国ニ於テハ夙ニ労働国際立法ノ大事業ニ 主要問題殊ニ労働諸条約案批准及実行ノ件及理事会組織改 十一日白国労働代表ニ面会セルニ第四回労働総会ニ於ケル ザル旨ヲ述ベタルニ付我枢密院ノ条約批准ニ対スル権限竝 四百五条第五項規定ノ期間ニ労働諸条約ヲ附議セズ又之ヲ 会ノ議題トナレル次第ナルガ日本国政府ニ於テ平和条約第 「マヘム」前大臣ヲシテ日本国ヲ六大特権国ノ一ニ明記ス (十月十二日接受)

> 五六二 十月十九日 内田外務大臣宛在巴里松田聯盟帝国事務局長ョリ

出ノ報告書ヲ聯盟事務総長ヨリ送付越ノ件 八大産業国認定問題ニ関シ石井理事会代表提

附属書一 石井代表ガ理事会ニ提出シタル第一次報告書

同右第二次報告書及九月三十日理事会採択人

聯本公第三〇五号

大正十一年十月十九日

国際聯盟帝国事務局長 松田道一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

八大工業国認定問題ニ関スル理事会ノ決議送

付ノ件

兹ニ及転送候也 ガ提出シタル前後弐回ノ報告ハ理事会ニ於テ採択セラレタ 第二十回理事会ニ於テ八大工業国認定問題ニ関シ石井理事 ガ今般聯盟事務総長ヨリ右報告写別添ノ通リ送付越候条

(附属書一)

石井代表ガ理事会ニ提出シタル第一次報告書写

0 国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件 我ニ不利ナル総会ノ大勢ヲ予測セシムルモノト認メラル 右ハ今次労働総会ニ於ケル八大工業国指定問題ニモ関聯シ

本使十四日夜森山ト共ニ「ゼネヴァ」ニ直行スベシ

我国労働社会ノ現状ヲ話シ置キタリ

五六二

QUESTION AS TO WHICH ARE THE EIGHT MEMBERS OF THE INTERNATIONAL LABOUR ORGANISATION OF CHIEF INDUSTRIAL IMPORTANCE.

First Report by Viscount Ishii, Representative of Japan.

In accordance with its resolution of August 5th, 1920, the Council has again to take into consideration the questions raised by the claim submitted to the Council by India to be declared to be one of the eight Members of the International Labour Organisation which are of chief industrial importance within the meaning of Article 393 of the Treaty of Versailles, and any other similar claims with which it may feel itself called upon to deal.

In the interval since the claim of India was last before the Council, an enquiry into the criteria available to determine which are the eight Members of chief industrial importance has been conducted by a Commit-

tee appointed jointly by the Governing Body of the Labour Office and the Secretary-General in accordance with the Council's above-mentioned resolution. Copies of this report are in my colleagues' hands (Doc. 410. 1922. V). To the report are annexed statistical tables, in which the Labour Office has applied the methods recommended by the Committee, utilising the best statistical information which it could procure.

The resulting classification of countries will be found on pages 29 and 30, Tables VIII and VIIIa and Table IX. Tables VIII and VIIIa show the results produced by the method of adding the index figures obtained by the various countries for the various criteria. Table IX shows the results which follow from adding the ranks attributable to the various countries in respect of the various criteria.

My colleagues have also received a memorandum by the Secretary-General which gives a summary account of the circumstances in which the Council is now

called upon to consider the matter.

In a question of this kind I prefer not to propose a draft resolution before I have heard my colleagues' opinions. I shall confine myself to placing before the Council the general conclusions at which I have arrived, and, after hearing the views of my colleagues, I shall be happy to be at the disposal of the Council, if desired, for the purpose of drafting a resolution embodying its decision.

The clause under which the Council is called upon to act is the fourth paragraph of Article 393 of the Treaty of Versailles, and the corresponding clauses of the other Peace Treaties, which is as follows:

"Any question as to which are the Members of chief industrial importance shall be decided by the Council of the League of Nations."

The First International Labour Conference constituted the Governing Body of the Labour Office on the basis of a list of Members of chief industrial importance which had been prepared, in the light of such evidence

as was available, by the Organising Committee of the Conference.

enquiry as to of the may be other countries which would feel that in beginning of 1921, expressed the desire that the of which have been circulated to the Council. dum asserting and defending the Polish claim, copies memorandum of the Secretary-General, reasserted her of which a copy was attached to the above-mentioned India, however, is not the only country to be dissatisfied Government of the Netherlands, also in 1920 and at the ment transmitted to the Secretary-General a memoranobjection, and on August 19th last the Polish Govern-Sweden. Poland, by a letter of December 16th, 1921. that objections had been made by Canada, Poland and to the Conference, the Organising Committee noted with its exclusion from the list. The claim of India is a protest against this list. Netherlands should be considered; and there which were the eight Members, In presenting the claim

claim should not be overlooked.

strictly be said to have been formally submitted but is confronted with a general question as to which not advantageously take a narrow view of its task and the eight Members of chief industrial importance. In these circumstances, I feel that the Council canitself to adjudicating on the claims which can to it,

important practical considerations. This conclusion is, I think, imposed upon us by

it is determined which are the Members of chief indusrepresentation. chief industrial importance are ipso facto entitled on the Governing Body, while the eight Members must meet to select four Members for representation eight Members which are of chief industrial importance, of the Members of the Organisation, excluding Labour Conference. In October of this year the Governing Body of the Office must be No progress is, therefore, possible until The delegates of the Governments reconstituted by the Fourth the ťo of

> being elected. of the four Members and deprived of its chance of had been prevented from participation in the election representation in virtue of its industrial importance, it having been treated at the Conference as entitled to the displaced Member would reasonably complain that, Member on the list in favour of an appellant Member, position, since, if it were to take a decision displacing a made, would, moreover, place the Council in a difficult constituted on the basis of a list of the eight Members Council. It would be most unfortunate if it should in case of dispute, not by the Conference trial importance; and this question is to Council were probable or certain. which was disputed and against which appeals to the once more be necessary for the Governing Body to be Such appeals, if but by the be decided,

possible, be all determined by a decision of the Council the Members of chief industrial importance should, if It is, therefore, of great practical importance that

position of disappointed Members. then, at the election, be able to take account of the before the opening of the Conference, which would

not merely that the country is of more industrial imwhich figure on the original list. A decision by the claims recognised as possessing the chief industrial importance, portance than one or more of the countries hitherto Council in favour of a particular country is a decision list of eight Members in the place of one of the countries merely as a claim by a particular country to be put on the appear difficult for the Council to treat the question Council can hardly avoid making a comparison between Organisation that country is actually one of the eight but also that among all the Members From the legal point of view, moreover, it would of chief industrial importance. which seem to possess substantial of the Labour Hence the

I feel, therefore, that the Council must decide to 0 国際労働理事会ニ於ケル八大産業国決定ニ関スル件

> according to the best judgment which it can form upon treat the present question as a general question as the information available to it. tance, and endeavour to name such eight Members which are the eight Members of chief industrial impor-

respective countries, figures differing from those originally used by the Organising Committee certitude. After a protracted enquiry, in which suggested which will give a solution with mathematical mittee's report can be solved, I am afraid it is clear from the mended by the Government of India criticising the methods recomcertain corrections and with amended figures. First Labour Conference should be employed with Committee is only able to recommend that the criteria many ingenious suggestions have been examined, the before us memoranda from the Polish Government and Turning now to the methods by which the question the Committee and proposing, for that no statistical procedure can be We have of the their

六〇五

in the annex to the Committee's report. The Committee itself, moreover, has proposed two methods of combining the results obtained for the various criteria. Both these methods are severely criticised by India.

If we confine ourselves to applying the methods of the Committee with such figures as have been placed before us, we are placed in the following position:

The method of Tables VIII and VIIIa, by which the index figures obtained under the various criteria are added together and countries are classed according to the number of marks which they thus obtain, gives us, on the figures supplied by the Labour Office, the following as the eight chief countries: Great Britain (1), Germany (2), France (3), Canada (4), Italy (5), Belgium (6), Japan (7), India (8).

The figure of 20 millions suggested by the Government of India for the industrial population of that country would raise India from the eighth to the fourth place, but would not alter the identity of the eight

chief countries. On the figures supplied by the Labour Office, the next four countries are: Switzerland (9), Norway (10), Czechoslovakia (11) and Sweden (12). The new figures supplied by Poland would raise it from the 15th to the 11th or 10th place on the list. according as the new Indian figures were or were not also adopted.

figures proposed by the Polish Government would give Poland, in this table, is the 16th country. The Netherlands (10), India (11), and The four next countries are: Czechoslovakia (9) Japan (5), Canada (6), Belgium (7), and Sweden (8) Great Britain (1), France (2), Germany (3), Italy (4), the Labour Office, attributed to them, gives us, on the figures supplied by and the ranks thus obtained are added together and the countries finally classed according to the are arranged in an order of rank under each criterion, The method of Table IX, by which the countries the following eight chief Switzerland (12). figures thus new

the eighth place to Poland. The new figure for its industrial population proposed by India (20 millions) would make India the tenth country.

considers that the figure of 20 millions which it proposes population of India says that a precise figure for the industrial salaried which was the figure submitted at the Barcelona Con-I refer may be seen in the fact that the new figure of the figure (16,529 km.) adopted by the Labour Office, Polish railway mileage (33,580 km.) differs greatly from private sources of information and completed by official Government does not give its figures as officially ascerand completely comparable figures in this matter for the of the Polish and the Indian Governments. various countries is illustrated by the two memoranda The exceeding difficulty of obtaining indisputable but merely as based upon the most reliable Similarly the Indian Government expressly A practical example of the difficulty to which is not ascertainable, although it The Polish

should be regarded as justifiable on the known facts by a reasonable enquirer. The Labour Office had, however, suggested a figure of 8 millions. I call attention to these points merely to illustrate the extreme statistical difficulties of our problem, and not as in any way implying that we are not to give the most serious consideration to the new figures suggested for Poland and India.

There is one consideration affecting the report of the Committee to which I should perhaps direct my colleagues' attention. A country may be considered, as regards its industrial importance, either from the absolute or from the relative point of view; that is to say one may consider the absolute size and output of its industries, or one may consider the extent to which the national energies and resources are devoted to production by industrial methods, in which term I include agricultural production by industrial methods, the extent to which the country has become an

importance separately if we decide to do so. absolute and the relative criteria separately and make it possible for us to consider absolute and relative the annex (pages 25 to 28) give us figures for the ourselves to come to a conclusion. Tables I to VII of a method of combination, and on which we have the Committee has given us its opinion in suggesting relative importance is a matter of appreciation on which attached respectively points of view. The extent to which weight should be randum of India, is the problem of combining the two suggested by it is most severely criticised in the memothe problem in connection with which the solution considering the question with which we are dealing industrial country. There seems little doubt that both One of the Committee's most difficult problems, and these points of view have to to absolute importance and to be taken into account in

In the circumstances which I have described, we must, I think, recognise that it is impossible for us to

obtain a solution of our problem by mathematical or importance of various countries selection, according to the best of our judgment, in the figures supplied as furnishing valuable indications for of the scientific possibilities of the situation, and I accurate should approve either the methods proposed by strictly scientific methods. I do not suggest that difficulty, but for which I suggest we can only make countries. without much difficulty to select the first four or five think we can safely treat the methods proposed and the must be grateful to the Committee for its investigation figures supplied by the Labour Office as being perfectly before us and of our general knowledge of the industrial light of the indications obtainable from regard to the filling of which there is much more our guidance. Committee as constituting a scientific solution or the and comparable statistics. But I think we There will remain three or four places in It seems likely that we shall be the able

the Governing Body for the prescribed term of three the First Labour Conference by the appointment of by the non-adhesion of the United States was filled industrial importance if it were a Member of the Orgapresent as Members of chief industrial importance. were elected by the first Conference as Members United States would also sit as a Member of chief Great Britain, ally constituted at present. Germany, Belgium, France, how the Governing Body of the Labour Office is actu-It may be useful for me to remind the Council The vacancy on the Governing Body caused The Argentine, Canada, Poland and Spain Italy, Japan and Switzerland sit at The of bу

Finally, I have to call attention to a question of procedure. The memorandum of the Indian Government is accompanied by a letter asking that we shall also hear an oral statement by its representative. I presume that at some stage of our discussion we shall

be glad to hear such a statement and that we shall give the same facility to Poland or other Governments if so requested.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

日本国代表者石井子爵ノ第一報告国際労働機関ノ八大産業国ノ決定問題

要アルナリ要アルナリーの一九二〇年八月五日ノ決議ニ従と同理事際別理事会へ其ノ一九二〇年八月五日ノ決議ニ従と同理事際別のである。「ヴェルサイユ」条約第三九三条ノ趣を定く印度ノ同国ハ「ヴェルサイユ」条約第三九三条ノ趣を定くのである。

五六二

資料ヲ以テシタリ

算シタル結果ヲ掲ケタルモノナリトスだと各国ノ得タル指数ヲ加第シタル結果ヲ掲ケタルモノニ表ノイイ及第九表ニ在リ第八表及第八表ノイイハ所用ノ標準ニ表ノイイ及第九表ニ在リ第八表及第八表ノイイハ所用ノ標準ニ

入手セラレタリルニ至リタル事情ノ概要ヲ掲ケタル聯盟事務総長ノ覚書ヲモ同僚諸君ハ又聯盟理事会カ右問題ヲ審議セサルヘカラサ

ニシテ其ノ規定ハ左ノ如シユ」条約ノ第三九三条第四項及他ノ平和諸条約ノ対当規定聯盟理事会ヲシテ本件ニ与ヲシムルノ規定ハ「ヴェルサイ

「主要産業国カ何レナルカノ問題ハ国際聯盟ノ聯盟理事会

之ヲ決定スヘシ」

局ノ理事会ノ組織ヲ行ヒタリ資料ニ基キ作成セル主要産業国ノ名簿ニ依リ国際労働事務第一回国際労働総会ハ該総会ノ準備委員会カ其ノ所持セル

ラルへキモノナルコトヲ思考セルモノアルへシ 印度ノ要求ハ右名簿ニ対スル異議タリ尤モ該名簿ヨリ除外印度ノ要求ハ右名簿ニ対スル異議タリ尤モ該名簿ヨリ除外のでは、 一年、 一十二月十六日附書簡ヲ以テ(右写ハ前記事務総長ノ覚書ニ 大正書ノ写ハ本理事会ニ廻付セラレタリ)和蘭国政府モ で、右文書ノ写ハ本理事会ニ廻付セラレタリ)和蘭国政府モ が一九二〇年及一九二一年ノ初頭ニ於テ同国ノ地位ヲモ考 が一九二〇年及一九二十年ノ初頭ニ於テ同国ノ地位ヲモ考 が一九二〇年及一九二十年ノ初頭ニ於テ同国ノ地位ヲモオ が一九二〇年及一九二十年 大正義国ノ選定ニ関スル調査ニ付其ノ地位ノ均シク考慮セ

コトトスルヲ以テ妥当ナラス反対ニ理事会ハ八大産業国カ正式ニ理事会ニ提起セラレタル請求ノミニ付決定ヲ与フル斯カル事情ノ下ニ於テ余ハ聯盟理事会カ其ノ任務ヲ局限シ

ナリーのアンカリー般ノ問題ニ付決定スヘキモノナリト認ムルー

命セラルルノ結論タリ余ノ所見ニ依レハ実際的ニ重要ナル考察ニ基キ右ハ吾人

構成スルノ余儀ナキニ至ルカ如キコトハ最憂フヘキコトナ キ所 国ヲ選定スルカ為会合スルノ要アリサレハ八大産業国ノ何 府代表委員ヲ除クノ外右理事会ニ自己ヲ代表セシムヘキ四 労働理事会ニ代表セラルルノ権利ヲ有スル八大産業国ノ政 名簿中ノ或一国ニ代フルニ訴ヲ為シタル国ヲ以テスル テ困難ナル地位ニ立タシムヘシ蓋シ聯盟理事会ニシテ若シ 総会ニ於テスヘキモノニ非スシテ実ニ聯盟理事会ノ決スヘ 而シテ本問題ニ付意見ノ一致セサルトキハ之カ決定ハ労働 レナルカノ決定セラルル迄ハ何等手続ノ進捗ハ不可能ナリ ルヘキモノナリ労働機関ノ締盟国ノ政府代表委員ハ当然 国際労働理事会ハ本年十月第四回労働総会ニ依リ改選セラ テハ除斥セラレタル国ハ其ノ産業上重要ナルカ為労働総会 ヘシ若シ斯カル訴ノ提起アルトキハ右ハ聯盟理事会ヲシ アリ得へキ否其ノ疑ナキ八国ノ名簿ニ依リ労働理事会ヲ [ニ係ル既ニ抗議アリ又聯盟理事会ニ抗議ノ提起ヲ見ル 二於 =

立ツヘキヲ以テナリ選挙セラルヘキ機会ヲ奪ハレタリトノ理由ニ依リ異議ヲ申ノトシテ従テ同国ハ四国ノ選定ニ干与スルコトヲ得ス之ニだテ理事会ニ議席ヲ有スヘキモノナリト看做サレタルモ

蔵スルコトヲ得セシムルコト極メテ重要ナリ選挙ニ際シ大産業国ノ班ニ加ヘラレサリシ諸国ノ地位ヲ考カ総テ聯盟理事会ノ決定ニ依リ指定セラレ従テ総会ヲシテカ総テ際的見地ヨリシテ成ルヘク総会ノ開会前ニ大産業国

比較ヲ試ミムコトヲ要ス加之法律的見地ヨリシテモ聯盟理事会カ原名簿ニ掲ケタルにノノ如シ特定国ノ利益ノ為ニスル聯盟理事会ノ決定ハルモノノ如シ特定国ノ利益ノ為ニスル聯盟理事会ノ決定ハモノノ如シ特定国ノ利益ノ為ニスル聯盟理事会ノ決定ハロリノ産業上一層主要ナル国ナルコトヲ明ニスルニ止マラス右特定国カ労働機関ノー切ノ締盟国中ニ於テ実際ニ産業上最主要ナル八国ノーナルコトヲ示スモノタリ従テ聯盟理事会ハ最主要ナル八国ノーナルコトヲ示スモノタリ従テ聯盟理事会ハ最主要ナル八国ノーナルコトヲ示スモノタリ従テ聯盟理事会ハ最主要ナル地位ヲ有スト認メラルルー切ノ国ニ付比較ヲ試ミムコトヲ要ス

仍テ余ハ聯盟理事会ニ於テハ本問題ヲ一般ノ問題トシテ即

字ノ修正ヲ加ヘタルモ)採用セムコトヲ勧告スルノ外ナシ 定シ且有ラユル情報ニ基キ為シ得ヘキ最良ノ判断ニ依リ八 大産業国ヲ指名スルコトニカムヘキモノナリト認ム 大産業国ヲ指名スルコトニカムヘキモノナリト認ム 大産業国ヲ指名スルコトニカムヘキモノナリト認ム 大産業国ヲ指名スルコトニカムヘキモノナリト認ム 大産業国ヲ抗名スルコトニカムへキモノナリト認ム 大産業国ヲ抗名スルコトニカムへキモノナリト認ム 大産業国カ何レナルカノ問題トシテ処理スルコトニ決 を入り、 でシューラの、アルで、 でいるが、 でい

深酷ナル批評ヲ受ケタルモノナリトスはヨ提議シタルカ此ノ二箇ノ方法ハ何レモ印度政府ニ依リ更ニ種々ノ標準ヲ用ヰテ得タル結果ヲ組ミ合セテ二箇ノ方評シ且委員会報告ノ附属書ニ掲ケタルト異リタル数字ヲ各評シ且委員会報告ノ附属書ニ掲ケタルト異リタル数字ヲ各評シ且委員会報告ノ附属書ニ掲ケタルト異リタル数字ヲ各

着スルニ至ルヘシ第八表及第八表ノイイリニ於テハ各種標準ニタル数字ヲ容認スルニ止ムルニ於テハ吾人ハ次ノ結果ニ逢若シ吾人ニシテ委員会ノ方法ヲ適用シ且吾人ニ提示セラレ

ル 第十五位ヨリ吾人カ印度ノ提出シタル新ナル数字ヲ採用ス ハ次位ノ四国ハ仇瑞西田諾威出「チェッコ、スロヴァキア」 モノヲ変更スルコトナシ労働事務局ノ供給セル数字ニ拠レ 第八位ヨリ第四位ニ昇スコトトナルヘキモ八大産業国其ノ 産業人口数ナリトシテ提出セル二千万ノ数字ハ同国 の印度ヲ以テ八大産業国トスルモノナリ印度政府カ同国ノ 立テタリ右ノ方法ハ労働事務局ノ供給セル数字ヲ容認スル 付得タル指数ヲ加算シ右ノ得タル点数ニ従ヒ各国ノ順位ヲ トキハ円英国口独逸巨仏国四加奈陀田伊国内白耳義出日本 ナルヘシ カセサルカニ依リ第十一位又ハ第十位ニ昇ラシム ル [ヲシテ コト

キハ同国ハ名簿ノ第十位タルヘシ人口数ナリトシテ指摘シタル新数字(二千万)ヲ容ルルトシタル新数字ハ同国ヲ第ハ位タラシムヘク印度カ其ノ産業ノタリ本表ニ於テハ波蘭ハ第十六位ナリ波蘭国政府ノ提出

其ノ提出セル二千万ナル数字ヲ以テ一般ニ知ラレタル事実 余ノ暗示セル困難ノ典型的ナル一例ハ波蘭ノ鉄道哩数ニ関 比較セラレ得ル数字ヲ得ルノ如何ニ困難ナルカヲ示スモノ 波蘭国政府及印度政府ノ二覚書ハ各国ニ付争ナク且完全ニ 確ナル数字ハ之ヲ決定スルコトヲ得サル旨ヲ明説セリ然ル 字(一六、五二九粁)即チ「バルセロナ」会議ニ提出セラ スル新数字(三三、五八〇粁)カ労働事務局ノ採用セル数 テ公ノ調査ニ依リ完成セラレタルモノナルコトヲ声明 タリ波蘭政府ハ其ノ数字ヲ以テ公ノ統計ニ基クモノナリ スルヲ憚ラサリシモ同国ノ産業ニ従事スル賃銀労働者ノ的 ニ基キ各人ニ依り正当ナリト認メラルヘキモノナリト声明 レタル数字ト著大ナル差違アルコトナリ同様ニ印度政府 ハ主張セス右ハ最真面目ナル私的情報ニ由来スルモノニ 労働事務局ハ八百万ナル数字ヲ提示シタリ余カ如上ノ細 ニ注意ヲ喚起セルハ単ニ本問題ニ付存スル統計上ノ非常 セ ハ IJ シ ŀ

コトヲ謂ハムトスルモノニハ非サルナリ及印度ノ提示セル新数字ニ付深キ考慮ヲ払ハサルノ意アルナル困難ヲ例示スルカ為ニシテ右ハ決シテ吾人ニ於テ波蘭

属書第一表乃至第七表 其ノ意見ヲ述ヘタリ吾人ハ今ヤ結論ヲ与ヘサルヘカラス附 問題ナリトス絶対的重要サト相対的重要サヲ評量スルコト 深酷ナル批評ヲ蒙リタル問題ハ右ノ二ノ見地ノ組ミ合セノ シテ又委員会ノ提議セル解決ニ付印度ノ覚書ニ於テ極メテ ナキモノノ如シ委員会ニ顕ハレタル最困難ナル問題ノ一ニ ルニ如上ノ二ノ見地ヨリシテ考慮スルノ適当ナルハ殆ト疑 度ヲ思考スルコトヲ得ルナリ吾人ノ処理スル問題ヲ研究ス 依ル農業生産ヲ包含セシムー 依り生産ニ捧ケラルル程度し ヲ思考シ得ヘク或ハ国民ノ活力及国ノ資源カ産業的方法ニ 考スルコトヲ得換言セハ其ノ産業ノ絶対ノ大キサ及生産高 サハ或ハ絶対的見地ヨリシ或ハ相対的見地ヨリシテ之ヲ思 諸君ノ注意ヲ喚起スル ハ裁量ノ事項タリ委員会ハ組ミ合セノ方法ヲ提案シ吾人 余ハ委員会ノ報告ニ関シ其ノ考慮セラレタル事実ニ付同僚 ノ要アリト信ス一国ノ産業上ノ重要 (二五—二八頁) 八吾人二絶対的及 ―即チー国カ産業国タルノ程 -余ハ該語句ニ産業的方法ニ

吾人ノ能フ限リノ明智ヲ以テ利用スルコトニ依リ且更ニ吾 字ヲ安全ニ取扱フコトヲ得ルモノナリト思考ス吾人ハ名簿 提議スルモノニ非ス然レトモ余ハ吾人ニ於テハ委員会ニ対 認メサルヘカラス余ハ科学的解決方法ヲ供スルモノトシテ 学的ナル方法ニ依リ本問題ヲ解決スルノ不可能ナル 思フニ如上ノ事情ノ下ニ於テ吾人ハ数理的ナル又ハ厳ニ 国ニ付絶対的重要サ及相対的重要サヲ夫々ニ考査スルニ決 相対的標準ニ対スル各数字ヲ供シ而シテ吾人ヵ其ノ若シ各 ニ充ツルニ多大ノ困難ヲ感セシムルモノ残存ス但シ余ハ吾 シ事態ノ科学的研究ノ可能性ノ調査ニ関シテ感謝スヘキモ 統計ナリトシテ事務局ノ供与シタル数字ヲ承認セムコト 委員会ノ提案セル方法及絶対ニ正確ニシテ且比較シ得ヘキ 人カ各国ノ産業上ノ重要サニ関スル吾人ノ一般的智識ニ訴 コトヲ得ヘキモノノ如シ而シテ三四ノ議席ノ吾人ヲシテ之 ニ於ケル初メノ四五国ニ付テハ殆ト困難ナク之ヲ決定スル スモノナリトシテ提議セラレタル方法及供給セラレタル数 ノナリト思考シ而シテ吾人ニ於テハ吾人ノ決定ノ針路ヲ指 スルニ於テハ吾人ヲシテ之ヲ行フコトヲ得セシメタリ ニ提供セラレタル資料ニ依り吾人ニ供セラレタル指示ヲ コトヲ ヲ

ノナルコトヲ信スルナリフルコトニ依リテノミ吾人ハ右ノ選択ヲ行フコトヲ得ルモ

ノ要求アルトキハ同様ノ便宜ヲ与フヘシト思考スルナリノ陳述ヲ聴取スヘク且波蘭其ノ他ノ政府ニ対シテモ若シ其求シタル書簡添附セラル余ハ吾人ニ於テハ吾人ノ討議中右ニハ吾人ニ於テ同国代表者ノロ頭陳述ヲ聴取セムコトヲ請畢リニ手続ニ付注意ヲ喚起スヘキモノアリ印度政府ノ覚書

(附属畫二

三十日理事会採択ノ決議写石井代表ガ理事会ニ提出シタル第二次報告書及一九二二年九月

Second Report by Viscount Ishii, Representative of

Japan, and Resolution, Adopted by the Council on September 30th, 1922.

This question, on which I had the honour to present a report to the Council on September 13th last, has now been discussed by us at several meetings. We have carefully considered the recommendations of the Committee of Experts presided over by M. Fontaine, and we have had the advantage of valuable memoranda and oral statements from the Governments of India and Poland, and of hearing a no less valuable oral argument from the representative of Switzerland. No other Government has requested to be heard by

In the course of our discussions the Council has agreed with the view expressed in my original report, namely, that we have before us a general question, arising under Article 393, paragraph 4, of the Treaty of Versailles, as to which are the Members of the International Labour Organisation which are of chief

industrial importance within the meaning of the article, and that it is our duty, under paragraph 4 of the article, to answer this question, according to the best of our judgment, by drawing up a list of the countries which we consider to satisfy the description given in the article.

reasons stated in my first report we have been obliged, our intervention. Our position is simply that for the undisputed list, there would have been no room First Labour Conference had been able to adopt an without reference of a dispute to the Council. not to draw up the list if the list can be framed primarily the function of the International Labour first instance or in all circumstances. This is, no doubt, the list of eight chief industrial countries, either in the charged by the Treaty with the duty of drawing imply that we consider the Council to be the authority Conference. I wish to make it clear that this action does not The Council is there to settle disputes, If the for

in face of the claims submitted to us and the objections to which the original list has given rise, to consider the competing claims of the countries included in the original list and of other Members of the Labour Organisation and to answer the question which we have to decide under Article 393 of the Treaty by naming the countries which we consider to be the eight chief industrial countries.

We were all agreed that, on the evidence before us, seven countries, which I place in the alphabetical order of the names in French, ought to be included at present in the list. These countries are Germany, Belgium, Canada, France, Great Britain, Italy and Japan.

There remained one place to fill.

The statistical evidence before us was not conclusive. The Committee of Experts had proposed certain criteria but we were obliged to recognise that the Committee was right in saying that these criteria are not

more than the best criteria which can be suggested made India the 10th and Poland the eighth or were not also adopted. On Table IX the new figures of India and Poland proposed alternative figures for gave the eighth place to Sweden. The Governments as the eighth country; the other, applied in Table IX, Labour Office to the Committee's report, showed India Table VIIIa of the annex attached by the International of these methods, which was applied in Table VIII and over, proposed two methods of combining the criteria their application cannot claim to be, the present moment, and that the figures available for 10th country, according as the new Indian figures were the fourth country and Poland either the 11th or the the tables. their respective countries, which placed them higher in without indicating a preference for either method. comparable figures. scientific sense, accurately established and perfectly In Tables VIII and VIIIa, India became The Committee of Experts, moreij. a strictly

statistical indications were therefore in favour of India. statistics or accept the Indian and Polish figures. Polish figures, and Sweden receives 12 or 11 plus 8=19 if we accept the new Indian and Poland receives 15 plus 16=31 on the original figures, if we accept the figures of the Indian Government; original statistics given in the annex, or 4 plus 10=14 that India obtains the figure of 8 plus 11=19 on the order of the smallness of totals thus resulting, one finds ance with the method of Table IX, ranks them in the countries in question in the two tables, and, in accordor 12 plus 9=21, according as we take the original one adds together the places secured by the three the Committee of Experts itself used in Table IX. If combining Tables VIII and IX by the method which I ventured to suggest to the Council the possibility of plus 8=20, The

We did not, however, feel that such statistical methods and the available figures could be accepted by us as much more than an interesting indication which

favour could be of assistance to us in forming our judgment. to the remaining place on our list. that, so far as we can judge, India has the best claim the various general arguments which can be urged in question not merely in the light of the available statisdifferent criteria. We have therefore considered the tics and statistical methods, but also in the weight to some of these arguments and to seek rather least of our number were inclined to attach considerable all three countries which were heard, and the solution of our problem were addressed to us Arguments against accepting the methods as furnishing of different countries, and we have decided some

Our decision introduces two new countries into the list of eight countries of chief industrial importance which was drawn up by the Organising Committee of the First Labour Conference. Of the eight countries which figured on the original list, only seven now remain, since the United States, which was on the list,

questions of industrial potentiality. Our decision, in any industrial potentialities. We felt bound to take our country, and, in particular, does not reflect its great give a fair picture of the industrial importance of the information, which is admittedly unsatisfactory, does not it was represented to us that the available statistical ing Body of the Labour Office. it chooses the four other Members of the organisation case, is not taken for all time, but may be reviewed decision on the facts before us without entering which have Government representatives on the Governand be considered by the next Labour Conference when Switzerland's representation on the Governing Body of country, Switzerland, from the place of a Member of the Labour Office, which will doubtless be placed before Switzerland addressed to us arguments in support Our decision has therefore the effect of displacing one has not become a Member of the Labour Organisation. industrial importance. The representative On behalf of Poland, into of of

in the light of new claims supported by new arguments on subsequent occasions of reconstitution of the Governing Body. Poland, moreover, like Switzerland, and other countries to which our decision may be a disappointment, will have the opportunity of urging before the next Labour Conference a claim for inclusion among the four elective Members.

claim of India first came before us in 1920, and might guidance, the principles which we applied when the ever, that we are the eight chief industrial countries. I think, howof its present functions under Article 393, the Council give a different constitution to the Governing Body of under the article and to consider the may again be called upon to exercise its functions the International Labour Office, and deprive the Council labour provisions of the Treaty of Versailles does not things, a temporary I have noted that our decision is, in the nature might lay down permanently, for one. If an amendment of the question which of.

resolve that, in the absence of quite exceptional circumstances, the Council will probably not consider it proper to take any decision affecting the constitution of the Governing Body of the Labour Office during the currency of a term of office of the elected Members of that body.

If I have correctly summarised the manner in which we have reached our decision, it only remains for us to embody it in a formal resolution, for which purpose I have the honour to submit the following draft:

Resolution

The Council of the League of Nations,

Considering that the claims made to it by India and Poland, and the objections made by various other countries, in regard to the list of the eight Members of the International Labour Organisation of chief industrial importance which was prepared by the Organising Committee of the First General Conference

of the International Labour Organisation and employed for the constitution of the Governing Body of the Labour Office in 1919, have raised a general question as to which are the eight Members of chief industrial importance:

And considering that by the fourth paragraph of Article 393 of the Treaty of Versailles and the corresponding articles of the other Treaties of Peace, this question is to be decided by the Council:

Decides that the eight Members of the International Labour Organisation which are of chief industrial importance are at present, in the alphabetical order of the names in French: Germany, Belgium, Canada, France, Great Britain, India, Italy and Japan.

In accordance with the resolution adopted by the Council at San Sebastian on August 5th, 1920, the present decision is given for the purpose of the reconstitution of the Governing Body of the International Labour Office, which is to be effected by the Fourth

General Conference of the International Labour Organisation; and the decision is not intended to affect the composition of the Governing Body as constituted by the First Conference.

In conclusion, I would ask the Council to convey to M. Fontaine, through the Secretary-General, its thanks for the very valuable services rendered by the Committee over which he so ably presided.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

シタル同条ニ所謂主要産業国カ何レナルカノ問題ニ関スルチ吾人ハ「ヴェルサイユ」条約第三九三条第四項ニ基キ生討議中聯盟理事会ハ余ノ第一報告ニ於テ表明シタル意見即

ナリトノ意見ニ一致シタリ諸国ノ名簿ヲ作成スルコトハ同条第四項ニ依リ吾人ノ任務リ本問題ヲ処理シ吾人ニ於テ同条ノ規定ニ合ヘリト認ムル一般問題ニ逢着セルモノナルコト及吾人ノ最善ノ判断ニ依一般問題ニ逢着セルモノナルコト及吾人ノ最善ノ判断ニ依

吾人ヲシテ干渉セシムルコト非サリシナルヘシ吾人ノ地位 働総会ニシテ争ナキ名簿ヲ採用スルヲ得タリシナラムニハ 任務ハ争議ヲ解決スルニ在リ名簿ニシテ同理事会ニ対シ争 右ハ言フ迄モナク専ラ労働総会ノ職任ニ属ス聯盟理事会ノ 従ヒ吾人カ産業上最主要ナリト認ムル八国ノ選定ヲ行フヘ 聯盟理事会ハ之カ作成ニ任スヘキモノニ非ス若シ第 議ノ提出セラルルカ如キコトナキ様作成セラレ得ル 業国ノ名簿ノ作成ニ任セシメラレタル機関ナリト思考シ ノ爾余ノ諸国ノ各ノ地位ヲ調査シ而シテ条約第三九三条ニ 付生シタル異議ニ基キ原名簿ニ掲ケラレタル国竝労働機関 ル理由ニ依リ吾人ハ吾人ニ提出セラレタル請求及原名簿ニ ハ単ニ次ノ如クナルニ過キス即チ余ノ第一報告中ニ述ヘタ ル旨ヲ暗示スルモノニ非サルコトヲ明カニセムコトヲ要ス ユ」条約ニ依り或ハ最初ヨリ或ハ一切ノ場合ニ於テ八大産 右ノ決定ニ付テハ吾人カ聯盟理事 会 ヲ 以 テ「ヴェル トキハ 一回労 サイ タ

政府へ各自国ヲ表中ノ高位ニ昇スへキ数字ヲ各自国ノ為ニ門委員会ハーツノ標準ヲ提案セリ然レトモ吾人ハ委員会ニ門委員会ハーツノ標準ヲ提案セリ然レトモ吾人ハ委員会ニ門委員会ハーツノ標準ヲ提案セリ然レトモ吾人ハ委員会ニ門委員会ハーツノ標準ヲ現ニ投験とリモノニ外ナラストが属書ノ第八表及第八表ノ(イ)ニ於テ適用セラレタルナカリシモノナリトス尚専門委員会ハ右ノ標準ヲ組ミ合スルコやリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会報告ニ派附シタルサリキ右方法ノーハ労働事務局カ委員会の関係を表しています。

認スルカノ各場合ニ依り 12+8=20 又ハ 12+9=21トナ 典ハ吾人カ原統計ヲ採用スルカ又ハ印度及波蘭ノ数字ヲ承 表ノ方法ニ従ヒ右得タル総数ノ小ナルモノヨリ之ヲ序列ス 箇ノ表ニ於テ問題タル三国ノ得タル順位ヲ各合算シ且第九 第九表ヲ組ミ合スルノ可能ナルコトヲ提言セムトス若シニ 門委員会自身カ第九表ニ付使用セル方法ヲ用 サレハ統計上ハ印度ニ有利ナルヲ示スモノタリ シ印度及波蘭ノ新数字ヲ承認スルトキハ 11+8=19 タリ瑞 =14ヲ得ヘク波蘭ハ 原統計ニ於テハ 15+16=31 ニ シテ若シ吾人カ同国政府ノ新数字ヲ承認スルトキハ ヲ第十位波蘭ヲ第八位ニ置クヘシ余ハ聯盟理事会ニ対シ専 十一位又ハ第十位ニ進ムヘク第九表ニ於テハ新数字ハ印度 提出セルカ第八表及第八表ノイハニ於テハ印度ハ第四位 ムヘク波蘭ハ印度ノ新数字ノ採用セラルルト否トニ依リ第 トキハ印度ハ附属書記載ノ原統計ニ於テハ 8+11=19 ニ ヰテ第八表及 シテ若 4+10三進

総テ吾人ヲシテ右ノ方法カ能ク本件ノ解決ヲ齎スヘキモノタルノ難キコトヲ思ハスンハ非ス吾人ノ聴取シタル三国ハハ吾人ヲシテ意見ヲ立テシムルニ資スヘキ指針以上ノモノ然レトモ吾人ニ於テハ斯カル統計方法及吾人ノ有スル数字

議セラレ而シテ労働事務局ノ理事会ニ政府代表者ヲ出スヘ 料ハ明カニ不充分ニシテ同国ノ産業上重要ナルコトニ付明 ムルカ為ノ議論ヲ主持シタリ右議論ハ次回ノ労働総会ニ付 故ニ七国ニ滅セルモノナルヲ以テ吾人ノ決定ハ主要産業国 名簿中ニ存シタル米国カ労働機関ノ締盟国ト成ラサリシカ 加ヘラレタルモノ二国アリ原名簿ニ加ヘラレタル八国ハ該 働総会準備委員会ノ作成ニ係ル主要産業八国ノ名簿ニ新ニ 有スルモノナル旨ヲ決定セリ吾人ノ決定ニ依レハ第一回労 カ名簿中空位トシテ残レル席ヲ占ムヘキ最重要ナル地位ヲ ヲ審議シ右ニ依リ吾人ハ吾人ノ判断シ得ル限リニ於テ印度 張セラレ得ヘキ一般的ナル種々ノ議論ヲモ参酌シテ本問題 可ナリ相異セル標準ヲ探索セムトセリ故ニ吾人ハ啻ニ吾人 ナリトノ観念ヲ拋棄セシムルノ議論ヲ吾人ニ提出シタリ而 ノ代表者ハ同国ヲシテ労働事務局ノ理事会ニ於テ代表セシ シテ吾人中少クトモ或者ハ右議論ノ或点ヲ著シク重要視シ ノ名簿ヨリ瑞西ノ一国ノミヲ削除シタルノ結果トナル瑞西 ノ有シタル統計及統計方法ニ拠ルノミナラズ各国ノ為ニ主 ナルヘキハ疑ヲ容レス波蘭ノ為ニハ吾人ノ有スル統計資 八大産業国以外ノ四国ノ選定ニ方リ該総会ノ審議スル所

原則ヲ吾人ノ準縄トシテ永久的ニ定メタルモノナリト思考をい吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコトヲ注意セリ余ハ吾人ノ決定ハ性質上一時的ノモノナルコト思考に関リヲティニカリカニア・ニカースを表別の言言との言言といる。

スル旨ヲ決定スルコトヲ得ヘシ組織ニ付該理事会ノ被改選会員ノ任期中ハ聯盟理事会ニ於ス吾人ハ絶対ノ例外的事情ナキ限リ労働事務局ノ理事会ノ

決議

国際聯盟ノ聯盟理事会ハ

国際労働機関ノ八大産業国ノ名簿――第一回労働総会準備国際労働機関ノ八大産業国ノ名簿――ニ界の可及他ノ平和カニ関スル一般的ナル問題ヲ惹起シタルコトヲ思ヒ且カニ関スル一般的ナル問題ヲ惹起シタルコトヲ思ヒ且カニ関スル一般的ナル問題ヲ惹起シタルコトヲ思ヒ且カニ関スル一般的ナル問題ヲ惹起シタルコトヲ思ヒ且ニガニルサイユ」条約ノ第三百九十三条第四項及他ノ平和ゴネカノ対当条項ニ依リ本問題ハ聯盟理事会ニ依リ決定セラルヘキモノナルコトヲ思ヒ

度、伊国及日本ナルコトヲ決定スト」ノ順序ニ於テ独逸、白耳義、加奈陀、仏国、英国、印国際労働機関ノ八大産業国ハ現在ニ於テハ「アルファベッ

メラルへキニ非ス 本決議ハ千九百二十年九月五日聯盟理事会カ「サン、セバ本決議ハ千九百二十年九月五日聯盟理事会カ「サン、セバ本決議ハ第一回労働総会ノ構のに係ル労働理事会ノ組織ノ変更ヲ定メムトスルモノト認 の回総会ニ依リ行ハルヘキ国際労働事務局ノ理事会ノ改選 の回総会ニ依リ行ハルヘキ国際労働事務局ノ理事会ノ改選 の回総会ニ依リ行ハルヘキ国際労働事務局ノ理事会ノ改選 の回総会ニ依リ行ハルヘキ国際労働機関ノ第 の回総会により行いルヘキ国際労働機関ノ第 の回総会により行いルヘキ国際労働機関ノ第

事会ニ請求スアル議長タリシ「フォンテーヌ」氏ニ致サムコトヲ聯盟理理事会ノ感謝ノ意ヲ事務総長ヲ通シテ右委員会ノ斯ク功績畢リニ余ハ委員会ノ遂ケタル甚タ貴重ナル業務ニ対スル本

 \circ